

# 小学校英語活動を踏まえた 中学校英語の入門期指導



平成 22 年 3 月

神奈川県立総合教育センター



## はじめに

平成 20 年 3 月に新しい中学校学習指導要領が告示されました。英語は、各学年の授業時数が年間 105 時間から 140 時間に増加し、3 年間の授業時数が最も多い教科になります。生徒のコミュニケーション能力の基礎を養う上で、中学校の英語教員への期待がますます大きくなっているといえます。指導に当たっては、4 技能を総合的に育成することが重要となりますが、特に、これまでの課題に基づき、自らの考えなどを相手に伝えるための発信力、コミュニケーションの中で基本的な語いや文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成に重点が置かれています。文法については、4 技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の基礎としてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行うように指導の改善を図ることが求められています。

一方、小学校の学習指導要領の改訂に伴い、小学校第 5、6 学年にそれぞれ年間 35 単位時間の「外国語活動」が導入されることになりました。「外国語活動」は英語を取り扱うことを原則としていることから、中学校の英語教育の位置付けが変わります。これからは、中学校に入学してくるすべての生徒が小学校で一定時間英語に触れてくることを踏まえて学習指導をすることになります。また、言語や文化に対する体験的な理解、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、英語の音声や基本的な表現への慣れ親しみの度合いもこれまでとは異なることが予想されます。今後、中学校では第 1 学年の英語の指導計画を作成するに当たり、小学校における英語活動への理解を深め、地域の小学校における実践や児童の実態などを把握することが大切になります。

本冊子は、小学校における英語活動を踏まえた中学校英語の入門期指導について、事例を示しながらまとめたものです。小学校における英語活動について理解を深め、これからの中学校第 1 学年の適切な指導を考えるための参考として本冊子をご活用いただけたら幸いです。

平成 22 年 3 月

神奈川県立総合教育センター

所 長 安 藤 正 幸

# 目 次

はじめに

目次

本冊子の目的と構成

第 1 章	これからの中学校英語	1
1	これからの中学校英語の目標	1
2	これからの中学校第 1 学年の指導に求められること	2
第 2 章	小学校英語活動の内容	3
1	小学校英語活動の目標	3
2	小学校英語活動の指導の内容と方法	4
3	小学校英語活動の活動内容	5
4	小学校における様々な指導	6
第 3 章	小学校英語活動を経験した生徒の姿	7
1	神奈川県立総合教育センターの調査研究から	7
2	国立教育政策研究所の調査研究から	13
3	小学校英語活動を経験した生徒の姿のまとめ	14
第 4 章	中学校英語の入門期指導のポイント	15
1	指導計画の作成	15
2	小学校英語活動を踏まえた入門期指導のポイント	17

第5章 中学校第1学年の実践事例	28
事例1 「グループによる自己紹介」	28
事例2 「豊かなコミュニケーションを意識した授業展開」	29
事例3 「理解を促すための小道具の活用」	30
事例4 「生徒の意欲に基づいた具体的な目標設定」	31
事例5 「英語をたくさん聞かせて文法事項に気付かせる指導」	32
事例6 単元名「これはあなたの～ですか」	33
事例7 単元名「日本大好き」	37
第6章 小学校英語活動を踏まえた活動案と単元計画案	42
1 活動案「自分のペットを紹介しよう」	42
2 活動案「私のかばんは机の上にあります」	45
3 単元計画案「グリーン先生の初授業」	48
まとめ	54
参考資料	
英語ノート1、2の主な題材と言語材料	55
英語についてのアンケート調査用紙	57
引用・参考文献	60
作成関係者	

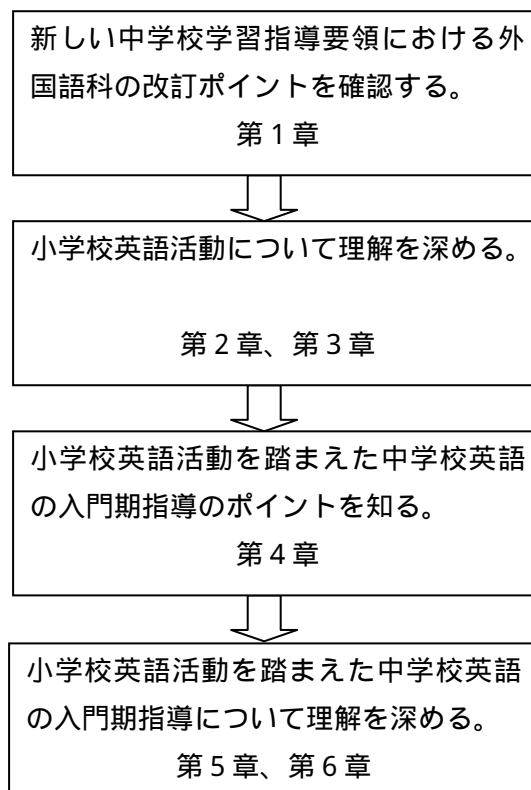
# 本冊子の目的と構成

## 1 本冊子の目的

本冊子は、中学校の英語教員が小学校における「外国語活動」(小学校英語活動)を踏まえた中学校英語の入門期指導について理解を深めることで、生徒のコミュニケーション能力の基礎を養うことの一助となることを目的としています。

## 2 本冊子の構成

本冊子は、次のような構成になっています。最初から順に読んでも、必要などろだけ読んでも理解できる構成となっています。



なお、55 ページ以降には、参考資料として「英語ノート1、2の主な題材と言語材料」「英語についてのアンケート調査用紙」を載せました。「英語ノート1、2の主な題材と言語材料」は、小学校に配付された英語ノート1、2で扱われている題材と言語材料などを表にまとめたものです。入門期の指導計画を作成する際の参考にしてください。「英語についてのアンケート調査用紙」は、本研究で使用したアンケート調査用紙を簡便にしたものです。中学校入学直後に、英語学習への生徒の意欲などを知るためにご活用ください。

本冊子における「入門期」の意味

本冊子では、中学校英語の「入門期」を、教科書を使う前の時期としてではなく、より広義にとらえ、中学校第1学年の夏休み前までの期間としています。

# 第 1 章

# これからの中学校英語

平成 20 年 3 月に小学校及び中学校の学習指導要領が改訂され、小学校には「外国語活動」(以下、「小学校英語活動」という。)が導入されることになりました。それを受けて、中学校は小学校英語活動との関連に留意して指導計画を適切に作成することになりました。本章では、新しい中学校学習指導要領の内容を確認するとともに、小学校英語活動を踏まえた指導をすることでどのような授業が可能になるのかを考えていきます。

## 1 これからの中学校英語の目標

新しい中学校学習指導要領は、外国語科の目標を、次に示すように 4 技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の基礎を養うこととしています。小学校英語活動が導入され、特に音声面を中心に、英語を用いたコミュニケーション能力の素地が育成されることになったことを踏まえ、中学校では、「聞くこと」と「話すこと」とともに、「読むこと」と「書くこと」の 4 技能を総合的に育成するための指導を充実させていくこととなります。

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

今回の改訂におけるその他のポイントは、次のとおりです。

自らの考えなどを相手に伝えるための発信力、コミュニケーションの中で基本的な語いや文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの重視

これまでの課題に基づいて、これらの三つの力の育成が重視されています。そのため、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識などを、生徒が自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することができるように、中学校 3 年間の指導を組み立てることが大切になります。

文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行うこと

文法指導は、文法説明や機械的な反復練習だけで終わらせるのではなく、文法事項を用いて意味のあるやり取りを行わせることが大切になります。

英語の授業時数が各学年とも年間 105 時間から 140 時間に増加

授業時数は、週当たり 1 時間増えます。増えた時間は、言語材料の定着を図りコミュニケーション能力の一層の育成を目指して、言語材料について知識や理解を深める基礎的・基本的な言語活動と、それらを活用して考えや気持ちなどを伝え合う言語活動を十分行うことに充てます。なお、指導すべき文法項目は増えていませんが、指導すべき語数はコミュニケーションを内容的に充実したものにするために「900 語程度まで」から「1200 語程度」に増えています。このことも併せて増えた時間を活用し、一層幅広いコミュニケーションを図ることができるようになることが大切になります。

## 2 これからの中学校第1学年の指導に求められること

小学校英語活動が導入されたことにより、英語教育における中学校の位置付けが変わります。これまでは、多くの生徒が中学校で初めて英語を学習しましたが、これからは小学校第5、6学年でそれぞれ年間35単位時間の小学校英語活動が行われるため、すべての生徒が小学校で英語に一定時間触れてから中学校に入学してくることになります。そのため、中学校第1学年の指導計画は、小学校英語活動との関連に留意して作成し、小学校英語活動で学習したことや身に付けたことをいかした授業展開をしていくことが大切になります。

また、新しい中学校学習指導要領に、第1学年における言語活動について、次のような配慮事項が示されており、指導計画を作成する際に考慮に入れる必要があります。

小学校における外国語活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度などの一定の素地が育成されることを踏まえ、身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動を行わせること。その際、自分の気持ちや身の回りの出来事などの中から簡単な表現を用いてコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。

このように、これからの中学校第1学年の指導計画は小学校英語活動を通じて培われたコミュニケーション能力の素地を踏まえて作成し、中学校の英語学習へ生徒を円滑に導くことが重要です。

現在、多くの小学校では、新しい小学校学習指導要領が完全実施となる平成23年度に向けて、英語活動に充てる時間数を増やしています。一方、中学校については、神奈川県教育委員会が作成した「平成21年度『各教科等の指導の重点』中学校」の外国語の項に、「指導計画の作成に当たり、特に第1学年においては、地域の小学校における外国語活動の指導や児童の実態などを把握するよう努める。」と記載されており、小学校英語活動を踏まえた指導に向けて取り組むことが既に求められています。中学校は、このような状況を踏まえ、これまでの英語の指導を修正、改善していくことが急務となります。

しかし、小学校英語活動の成果は、中学校の英語の教師には見えにくいという課題も指摘されています。これは、小学校英語活動の目標が中学校の英語教育で目標とするところと少し異なっているためと考えられます。このため、中学校第1学年の指導計画の作成や実際の指導に当たっては、小学校英語活動の内容や小学校英語活動を経験した生徒への理解を深めていくことが不可欠です。

小学校英語活動への理解を深め、小学校英語活動を踏まえた適切な指導を行うことで、中学校の英語の授業に、次のことが期待できます。

中学校入学当初から、英語を聞いたり話したりする活動ができる。

小学校で慣れ親しんできた単語や表現を活用することで、内容の豊かな言語活動を行うことができる。

小学校で慣れ親しんできた単語や表現を、自己表現活動やコミュニケーション活動などで活用したり、文字や文法面から確認したりすることで、更に定着を図ることができる。

小学校で慣れ親しんできた言語の使用場面、活動、指導方法を活用することで、中学校の英語学習への不安などを和らげることができる。



## 第2章

## 小学校英語活動の内容

これからの中学校第1学年の英語指導を考えるためには、小学校英語活動の目標や指導方法、扱われる題材、小学校英語活動を経験した生徒などへの理解を深めていくことが必要です。本章では、小学校英語活動の内容についてポイントとなる点を概観することで、小学校英語活動への理解を深めていきます。小学校英語活動を経験した生徒の姿は第3章で触れます。

### 1 小学校英語活動の目標

新しい小学校学習指導要領では、「外国語活動」の目標を次のように設定しています。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

「外国語活動」の目標は、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。」「外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。」「外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。」という三つの柱から成り立っています。この中で、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に重点が置かれています。

「外国語活動」は、英語を取り扱うことを原則としていることから、児童は、授業の中で英語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいきます。「中学校段階の文法等を単に前倒しするのではなく、あくまでも『聞くこと』『話すこと』を通して、音声や表現に慣れ親しむこと」(文部科学省 2008a p. 8)とされており、音声や基本的な表現について文法説明などを通して理解させることを目標としてはいません。

また、小学校英語活動の授業の中で、ある単語や表現がいくつかの単元で繰り返し使われると、児童はそれらを自然に覚えて、聞いて理解できるようになるかもしれません。しかし、小学校英語活動を通じて生徒が身に付けるこのような英語の知識やスキルは、あくまでも副次的なものとしてとらえておくことが大切です。なぜなら、小学校英語活動の目標は、英語の音声や表現に慣れ親しませることであり、知識やスキルの定着、文法事項の理解を目標としてはいないからです。したがって、次のような指導は小学校英語活動の目標に沿ったものではありません。

多くの表現を覚えさせたり、英語の文構造を概念的に理解させたりする。

基本的な表現が定着したかどうかを確認する。

「聞くことができること」「話すことができること」のようにスキルの向上のみを目標として指導をする。

このようなことから考えると、中学校において、例えば、「April という単語はみんな覚えているだろう」とか「アルファベットは書けるだろう」というような英語の知識やスキル面への期待に基づいた指導は、小学校英語活動を踏まえた入門期指導として適切ではないものといえます。

## 2 小学校英語活動の指導の内容と方法

小学校によって、小学校英語活動の指導の内容や方法は異なります。様々な機会を利用して、近隣の小学校で行われている英語活動の情報を集めることが大切です。次に示すのは、小学校英語活動の基本的な指導の内容と方法を、神奈川県立総合教育センターがこれまで行ってきた小学校英語活動の調査研究を基に、3ページに示した「三つの柱」に沿ってまとめたものです。

言語や文化について体験的に理解を深める
歌やチャンツで英語の音声やリズムに慣れ親しませたり、英語を「聞くこと」「話すこと」を通して、日本語と英語の違いや言葉の面白さなどに気付かせます。また、外国の文化だけではなく、児童にとって身近な日常生活を取り上げることで、日本と外国の文化の違いを知り、様々なものの見方や考え方があることに気付かせます。
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る
英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験させます。また、英語を聞いたり話したりする活動を通して、「英語を聞いて分かった」「英語が通じた」という経験を積み重ねさせながら、言葉を用いてコミュニケーションを図ることの大切さに気付かせます。
英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる
英語を通じて、言語や文化について体験的に理解させる活動や、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する活動を行うことで、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませていきます。その際、文字は使いません。学級担任は、まず、児童に慣れ親しんでほしい単語や表現を、様々な活動を通して繰り返し聞かせます。児童が英語を言ってみたいと思ってきたら、英語を発話する機会を与えて、更に慣れ親しませていきます。

小学校英語活動の指導方法の例
単元で扱う単語や表現を繰り返し聞かせて意味を理解させる。その際、適切な言語の使用場面を設定し、視聴覚教材などを活用することで、意味を推測しやすくする。 主に聞くことを主体にしたゲームやクイズを行い、単語や表現に慣れ親しませる。この間、英語の発話を強要しない。 チャンツや英語の発話を伴うゲームやクイズを行い、単語や表現に更に慣れ親しませる。児童が日本語でクイズに答えたら、学級担任は英語に言い換えて再度聞かせる。 自己表現活動やコミュニケーション活動ができるように、十分に発話練習をする。練習は機械的になりがちなので、児童が飽きないように練習形態を工夫する。 自己表現活動やコミュニケーション活動を行う。

神奈川県立総合教育センター（2008）及び（2009）を基に作成

「小学校英語活動の指導方法の例」では、まず、視聴覚教材などを活用しながら英語をたくさん聞かせることで、児童は、英語の音声に慣れ親しみながら聞いた英語の意味を推測し理解していきます。その後、英語の音声や基本的な表現に更に慣れ親しませる活動を行っていきます。十分に発話練習をして英語を言うことに自信を持たせたら、友達とのかかわりを大切にしたコミュニケーション活動などを行い、英語を用いたコミュニケーションの楽しさを体験させます。

### 3 小学校英語活動の活動内容

中学校第1学年の授業では、小学校英語活動で触れてきた題材や言語材料を活用して、小学校で慣れ親しんだ単語や表現にもう一度触れさせることが大切です。聞いたり話したりする活動の中で触れさせるだけでなく、読んだり書いたりする活動や文構造の学習などの様々な学習活動を通して、小学校で学習したことへの理解を深め、定着を図ります。

このような指導を行うには、小学校英語活動で扱われる題材や言語材料を知ることが大切です。また、生徒が小学生のときに、どのような活動を通して英語の音声や基本的な表現に慣れ親しんできたのかを知ることも役に立つでしょう。ここでは、小学校に配付されている「英語ノート」で扱われている題材、言語材料、活動を紹介します。

英語ノートで扱われている題材
あいさつ、数、動物、食べ物、外来語、時間割などの、児童にとって身近な題材が扱われています。児童は、これらの題材に関連する単語や表現を学習します。いくつかの単元にまたがって扱われる英語表現も多く、児童は同じ英語表現に繰り返し触れながら、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいきます。また、いろいろな国の言葉や文化を扱っており、外国の言語や文化に興味を持たせたり、その多様性に気付かせることもねらいの一つとしています。
英語ノートで扱われている言語材料
言語材料は、児童にとって身近で基本的なものです。現行の中学校の教科書で扱われているものも多いので、中学校の英語の授業で生徒が「それやったことがある。」と言うこともあるでしょう。55～56ページに、英語ノートの主な題材や言語材料などを示してあります。ただし、小学校英語活動は単語や表現を定着させることを目的としていないことや、英語ノートは教科書ではないので、その扱いは小学校によって異なることなどを踏まえた上で参考にしてください。
英語ノートで扱われている活動
音声を中心とした様々な活動が扱われています。 歌やチャンツなどの主に英語のリズムや音声に慣れ親しむ活動 キーワードゲーム、キーナンバーゲーム、カルタ、ビンゴなどの主に英語を聞く活動 ショーアンドテルのような自己表現活動 マッチングゲーム、インタビューなどのコミュニケーション活動 この他にも、ジェスチャーゲームのような言葉によらないコミュニケーション手段を扱った活動があります。



## 4 小学校における様々な指導

### (1) 小学校による実践の違い

それぞれの小学校では、自校の教育目標や児童の実態に基づいて小学校英語活動を実践しています。例えば、ある小学校では、コミュニケーション能力を育成するために、4ページの「小学校英語活動の指導方法の例」で示した流れで授業を展開しています。また、積極的にコミュニケーションを図る態度を育成するためには、まず英語を聞いて理解しようとする態度を養うことが大切だという考えに基づいて、「聞くこと」に重点を置いている小学校もあります。どちらの小学校でも、視聴覚教材などを活用して、様々な活動の中で英語をたくさん聞かせながら単元で扱う単語や表現に慣れ親しませていき、十分に英語を聞いて慣れ親しんだところで児童が英語を話し始める、という経過をたどります。しかし、指導の重点が「聞くこと」に置かれている場合、英語を十分に聞かせた後でも、クラス全体で英語の発話を伴う活動を行わないことがあります。

中学校は、このように小学校によって英語活動の目標や指導内容が異なることを考慮に入れて、小学校英語活動を経験した生徒の指導に当たることが大切です。

### (2) 小学校英語活動のとらえ方

小学校英語活動では、コミュニケーションの楽しさを体験させたり言葉によるコミュニケーションの大切さに気付かせたりするために、友達とのかかわりを重視したコミュニケーション活動が行われます。その中で、次のように小学校英語活動をとらえるようになった学級担任もいます。

児童は、英語活動を通してコミュニケーションの仕方を学び直している。

英語活動には、お互いの思いを伝え合い、親密な人間関係を築いていくエンカウンター的な要素がある。

### (3) 中学校に求められる対応

2ページでも触れたように、「平成21年度『各教科等の指導の重点』中学校」(神奈川県教育委員会 2009a)には「指導計画の作成に当たり、特に第1学年においては、地域の小学校における外国語活動の指導や児童の実態などを把握するよう努める。」と記載されており、近隣の小学校の活動内容や児童の様子などについて情報を集め、小学校英語活動を踏まえた指導の準備に当たることが求められています。具体的な方法としては、次のようなことが挙げられます。

近隣の小学校で、小学校英語活動の授業を見学させてもらう。

近隣の小学校に、年間指導計画や学習指導案などを提供してもらう。

また、例えば、座間市では英語における小中連携が進んでおり、研修会等を通して小学校と中学校の教員間で情報交換が行われています。このような場に積極的に参加することもよいでしょう。地域の小学校英語活動において、「どの程度の素地が養われているのかを十分に把握するとともに、扱われている単語や表現などについてもきめ細かく把握した上で、特に第1学年の指導計画の作成の参考にすることが大切である。」(文部科学省 2008b p.56)ことから、集めた情報は、児童の姿、指導方法、題材、言語材料、活動内容などの項目で簡単に整理すると、教員間で共有しやすいでしょう。

## 第3章 小学校英語活動を経験した生徒の姿

小学校英語活動を経験してきた生徒を理解するためには、小学校英語活動の目標にある三つの柱を視点として利用するとよいでしょう。本章では、神奈川県立総合教育センターでの調査研究を中心に、国立教育政策研究所（2009）の「平成 20 年度『小学校における英語教育の在り方に関する調査研究』成果報告書」の内容に一部触れながら、小学校英語活動を経験した生徒について理解を深めていきます。

### 1 神奈川県立総合教育センターの調査研究から

#### (1) 小学校からの報告

神奈川県立総合教育センターは、これまで小学校英語活動に関する調査研究を行ってきました。その中で報告された児童の姿を、小学校英語活動の目標にある三つの柱を視点として、次のようにまとめました。

下線は、神奈川県立総合教育センター

言語や文化についての体験的な理解
「いろいろな英語活動を通じて、 <u>日本語や英語のおもしろさに気付いた。</u> 」
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度
「『 <u>英語で友達と話すのがとても楽しい。</u> 』『もっと英語を覚えているいろいろなことを英語で言えるようになりたい。』など意欲的な感想があった。」(鈴木 2003 p.76)
「授業中、 <u>会話をする児童のそばに寄り添い助ける姿や、一人である児童に積極的に話しかける児童の姿が見られた。</u> 」(小林 2007 p.59)
「 <u>自分が英語を使うだけでなく、相手の反応が返ってくることに楽しさを感じている。</u> 」(香西 2009 p.72)
「 <u>分からない英語があっても、担任や外国語指導助手(A L T)のジェスチャーなどを見ながら聞こえた英語の内容を理解しようとしている。</u> 」
「自分が言いたいことを <u>一生懸命伝えようとするようになった。</u> 」
「英語活動で行うゲームなどを通して <u>児童の間に新たなかかわりが生まれた。</u> 」
「英語活動の時間だけでなく、 <u>普段からいろいろな友達に話しかけるようになった。</u> 」
英語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ
「 <u>英語に対して抵抗感がなく、A L Tや外国人に積極的に英語を使って声をかけている。</u> 」
「 <u>外国の人と触れ合ったり英語を聞いたりする活動に抵抗がなくなった。</u> 」
その他
「児童のめあても具体的で身近なものとなった。活動を始めた時は『いつか外国に行った時に使ってみたい』『外国の人とペラペラ話してみたい』というめあても、活動後には、『 <u>ちょっとしたひとことを英語で言えるようになりたい</u> 』『 <u>中学校でも楽しく勉強したい</u> 』という表現に変化していった。」(香西 2009 p.71)
「 <u>覚えた英語を使って話してみたい</u> という児童が出てきた。」
「 <u>自分の思いを伝えるために、新しい英語を知りたい</u> という児童が出てきた。」

出典が明記されていないものの引用先： 神奈川県立総合教育センター（2009 p. 1、p. 5）

小学校の報告から、小学校英語活動を通して次のような児童の変容が見られたことが分かります。

児童がコミュニケーションをすることの楽しさに気付き、コミュニケーションをすることに積極的になっていった。

英語に慣れ親しむにつれて、英語に対する抵抗感がなくなった。

英語学習の目的が身近で具体的になり、英語を使ってみたいとかもっと英語を知りたいという気持ちが生まれ、学習意欲が高まった。

## (2) 中学校からの報告

平成 21 年度研究事業「中学校英語に関する研究～小中の接続を踏まえて～」の調査研究協力員から、小学校英語活動を体験した生徒について次のような報告がありました。

下線は、神奈川県立総合教育センター

言語や文化についての体験的な理解
天気や色、数字や果物名などを授業で扱う際、「 <u>やったことがあるよ。</u> 」という生徒がいた。 ほとんどの生徒が、 <u>英語による簡単な指示を理解できる。</u> <u>単語をよく知っており、I like を用いた表現などに慣れ親しんでいる生徒が多い。</u>
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度
<u>英語で積極的にあいさつをし、教員が話す英語の内容を推測しようとする態度が見られる。</u> <u>英語で発表することに積極的に取り組み、友達が話す英語を理解しようとしている。</u> <u>コミュニケーション活動のときに自信を持って英語を話している。</u>
英語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ
Is that は「イズダツ」、T-shirt は「TEEシャー」のように、 <u>聞こえたまま単語にカタカナでフリガナをふっている生徒がいて驚いた。</u> <u>英語らしく発音しようとする生徒が多い。</u> <u>強勢やイントネーションを付けて英語を話したり読んだりしようとする。</u> <u>英語に対する抵抗感がなく、英語を聞いたり話したりすることに慣れている。</u> 以前なら、いきなり英語を話す活動をするのは難しかったが、今の入学生は <u>堂々と英語を話すので、小学校で英語に慣れていることの成果が現れていると感じる。</u>
その他
いろいろな <u>英語の活動の進め方に慣れている。</u> <u>教師の口をよく見てまねをしようとする態度が見られる。</u> 英語活動に力を入れている小学校の出身者は、 <u>英語を聞き取る力があり、反応が良く、第1回定期テストのリスニングテストでは比較的得点が高い。</u> ただし、2～3ヶ月でリスニング力は、ほかの小学校の出身者が追い付く。 <u>小学校で英語に対する苦手意識を持ってしまった生徒は、中学校で英語を習得するのに時間が掛かる。</u> <u>文字の導入時はローマ字を利用している。ローマ字を読んだり書いたりできるという自信を持っている生徒が多いが、実際に読んだり書いたりさせるとローマ字が定着していないことや、生徒によってローマ字の理解の差が大きいことが分かる。</u>

中学校の報告から、小学校英語活動を経験して中学校に入学してきた生徒について、次のことが分かります。

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や英語への自信を持っている。

英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、英語らしく発音しようとするなど音声への理解や単語などの知識がある。

様々な英語の学習活動に慣れている。

一定のリスニング力がある。

小学校で英語に対する苦手意識を持った生徒がいる。

また、ローマ字の理解度などについても報告されています。ローマ字は小学校第4学年（新しい小学校学習指導要領では第3学年）で学習しますが、実際にローマ字の学習に充てることができる時間は数時間であることを理解した上で、中学校で指導をすることが大切です。

### （3）英語についてのアンケート調査結果

神奈川県立総合教育センターでは、県内の中学校4校の協力で、中学校第1学年を対象にした「英語についてのアンケート調査」（以下、「アンケート調査」という。）を行いました。質問項目には、小学校英語活動に関連するものが含まれています。実施時期は平成21年10月～11月です。回答数は248でした。アンケート調査の結果は、次のとおりです。

#### ア 英語学習への意識

英語学習への意識	割合
英語が好きだ。	69.0%
小学校の英語の授業が好きだった。	60.3%
英語の勉強は大切だ。	81.5%
英語が使えるようになりたい。	85.0%
アルファベットを読んだり書いたりすることは大切だ。	87.4%

は、小学校のことを思い出して回答をしてもらったもの

英語が好きな生徒の割合は69.0%でした。小学校の英語の授業が好きだった生徒の割合が60.3%なので、中学校に入ってから英語が好きになった生徒がいることが推測できます。以下、ほかの質問項目の結果や生徒の記述を交えて、英語学習全般に対する意識について考えていきます。

英語の勉強が大切だと考えている生徒と英語が使えるようになりたいと考えている生徒の割合は80%以上だった。英語の勉強が大切だという理由は、将来使う、役立つ、必要になる、という言葉で表現されていることが多く、将来の仕事、海外旅行、外国人との交流を考えて回答した生徒が目立った。一方、英語の勉強は大切ではないという理由は、将来使わない、外国へ行くことはない、日本人だから、という理由が多かった。英語の勉強が大切だと考えている生徒も大切ではないと考えている生徒も、その多くは自分の将来と結び付けて考えていることが分かる。

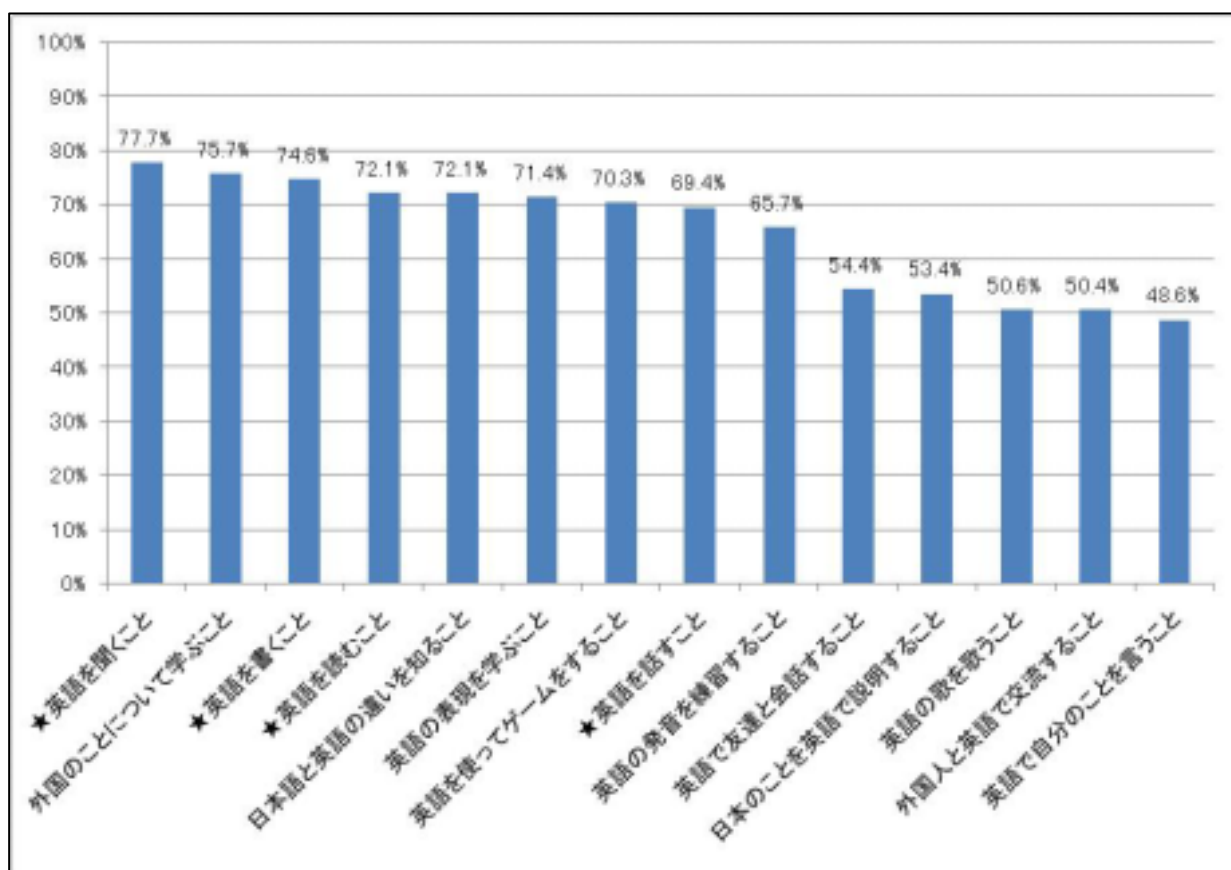
小学校のときに、アルファベットを読んだり書いたりすることが大切だと考えていた生徒の割合は、87.4%だった。これは、英語の学習において文字は大切だという意識が表れていると推測される。また、次の表に示した結果から、楽しく文字の学習をしていた生徒は約69%、比較的負担を感じることなく文字の学習をしていた生徒は約61%と考えられる。

小学生のときのアルファベットの学習に対する意欲	割合
アルファベットを読んだり書いたりすることは楽しい。	69.4%
アルファベットを読んだり書いたりすることは簡単だ。	60.9%
アルファベットを勉強することが好きだった。	70.0%

は、小学校のことを思い出して回答をしてもらったもの

#### イ 個々の学習活動への意欲

14 項目の英語の学習活動を挙げて、それぞれについて中学校でやってみたいかどうかを質問しました。14 項目のうち、4 項目は「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」についてやってみたいかと質問する形になっています。それ以外の個々の学習活動は、小学校で音声中心の活動を行ってくるので、「聞くこと」と「話すこと」にかかわる活動を中心に質問をしました。「やってみたい」「どちらかといえばやってみたい」と回答した生徒の割合は次のとおりでした。



中学校でやってみたい学習活動

4 技能 ( 印 ) を見ると、英語を「聞くこと」に意欲を示した生徒が最も多く、次に「書くこと」「読むこと」「話すこと」となっています。回答結果の詳細な分析も交えて、中学校の学習活動に対する意欲について考えていきます。



個々の学習活動では、「外国のことについて学ぶこと」に意欲を示した生徒の割合が約 76%で最も高かった。70%以上の生徒が「日本語と英語の違いを知ること」「英語の表現を学ぶこと」「英語を使ってゲームをすること」に意欲を示したが、「英語で友達と会話すること」などの英語の発話を伴う学習活動に意欲を示した生徒の割合は 40%～50%台だった。

英語が好きな生徒と嫌いな生徒に分けて学習活動への意欲を見た。その結果、英語が好きな生徒の 80%以上が 4 技能すべてに意欲を示していた。英語が嫌いな生徒については、約 63%が「聞くこと」に意欲を示したが、「話すこと」に意欲を示した生徒の割合は 40%弱だった。

英語が好きな生徒のうち、各技能の学習に意欲を示した生徒の割合		英語が嫌いな生徒のうち、各技能の学習に意欲を示した生徒の割合	
聞くこと	88.0%	聞くこと	62.5%
話すこと	83.4%	話すこと	39.3%
読むこと	84.0%	読むこと	54.5%
書くこと	88.8%	書くこと	47.3%

英語の発話を伴う個々の学習活動を見ると、英語が好きな生徒のうち、「英語で友達と会話すること」と「英語で自分のことを言うこと」に意欲的な生徒の割合は 60%～70%台だった。英語が嫌いな生徒のうち、この二つの学習活動に意欲を示した生徒の割合は 10%～30%台だった。英語を話す活動には、英語が好きな生徒でも難しさや負担などを感じていると推測される。

各項目間の相関係数を求めたところ、「英語の勉強は大切だ。」という思いと中学校でやってみたい学習活動との間には、やや相関がある程度だった。しかし、「英語が好きだ。」という思いと中学校でやってみたい学習活動との間には、かなりの相関がある項目が多く見られた。また、4 技能間にはかなりの相関があり、「英語を使ってゲームをすること」以外の個々の学習活動ともかなりの相関があった。「英語を使ってゲームをすること」は、4 技能及び他の学習活動との相関がややある程度だったことから、生徒の意識の中では、「英語を使ってゲームをすること」が、あまり学習活動としてとらえられていないと推測される。

#### ウ 言語や文化についての体験的な理解

小学校英語活動を通じて、生徒が英語について気付いたことを記述してもらいました。その一部を紹介します。

言語や文化についての体験的な理解
最初に英語を聞いたときに、日本語とぜんぜん違って驚いた。
日本語はひらがな、カタカナ、漢字とたくさん覚える言葉があるけれど、英語はアルファベットだけで不思議だなと思った。
日本語では、自分のことを「私、あたし、うち、おれ、ぼく、おいら、（自分の名前）」と言うけれど、英語は“I”“my” だから楽でいいなと思った。
日本語は「～がどうした」なのに、英語は「どうした、～が」になる。変なのと思った。
「パン」は英語ではなく、英語では「ブレッド」と言うことを知って驚いた。

生徒の記述から、小学生のときに、日本語と英語では、音声、文字、単語、語順などに違いがあることに気付いていたことが分かります。アンケート調査の中で、「小学校で英語を勉強したことで、『ことばっておもしろいな』『ことばは大切だ』『日本語と英語は違うんだな』と思ったことはありましたか。」という質問をしたところ、約 64%の生徒が、小学校英語活動を通じてこのような言葉の面白さや違いなどに気付いたことがあることが分かりました。

## エ 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度について知るために、「もし、あなたに外国人が話しかけてきたら、あなたはどのようにと思いますか。」と質問しました。結果は次のとおりです。

「もし、あなたに外国人が話しかけてきたら」	割合
英語で受け答えをする。	27.9%
ジェスチャーを交えながら日本語で受け答えをする。	26.7%
話を聞いて、必要なら近くの人に助けを求める。	21.1%
だまっている。	2.0%
その場から逃げる。	5.3%
わからない。	17.0%

「英語で受け答えをする。」「ジェスチャーを交えながら日本語で受け答えをする。」「話を聞いて、必要なら近くの人に助けを求める。」と回答した 75.7%の生徒は、コミュニケーションを図ろうとする意欲があると考えられます。この三つの回答のうち前の二つの回答を選択した生徒は、英語が好きだと回答した生徒の中に多いという傾向がありました。また、「話を聞いて、必要なら近くの人に助けを求める。」と回答した生徒は、コミュニケーションを図ろうとする意欲はあると思われませんが、外国人とのコミュニケーションには自信がないと考えられます。

## オ 小学校英語活動が好きだった理由

小学校英語活動で好きだったことやうれしかったことなどを生徒に記述してもらいました。その一部を紹介します。

小学校の英語の授業が好きだった理由
英語は一つの単語からいろいろな意味が出てくること。
いろいろな英単語を知ることができて楽しかった。
今まで知らなかった単語を授業で習って使えるようになったことがうれしかった。
自分も英語で話せたことがうれしかった。達成感があつた。
英語のクイズがおもしろかった。
英語でフルーツバスケットなどをしたのが楽しかった。
ゲーム方式だったり、シール等のごほうびがあつたりしたので頑張つた。
外国の先生と少しでも英語で話してそれが通じると楽しかった。
スリランカの先生の場合、スリランカの民族衣装を着たこと。

また、小学校英語活動が好きではなかった理由を書いた生徒もいたので、その一部を紹介します。

小学校の英語の授業が好きではなかった理由
発音や聞き取りがうまくできないことが多かったから。
できる人とできない人の差が激しかったから。
細かく英語を教えてもらえなかった。

小学校英語活動が好きになった理由として、言葉の面からは、英語の単語や表現を知る、分かる、使える、という体験をしたことが考えられます。活動の面からは、様々な活動を通して楽しい経験をしたことが考えられます。

また、小学校の英語の授業が好きではなくなる理由として、うまくできなかったという体験、英語力の差が既にあること、細かく英語を教えてもらいたかったという気持ちなどが原因になりえることがうかがわれます。

## 2 国立教育政策研究所の調査研究から

国立教育政策研究所（2009）の「平成 20 年度『小学校における英語教育の在り方に関する調査研究』成果報告書」の中から、第 6 学年児童を対象にしたリスニング、スピーキング、意欲などに関する調査研究報告の内容を簡単に紹介します。この報告書は、小学校英語活動の現状を一般化したものではありませんが、小学校英語活動を経験した生徒の傾向を推測する上で役に立つと考えられます。

「リスニングに関する調査研究」では、概要理解の問題が最も困難度が高く、単語単位・句単位・文単位で音声流れる問題よりも 2 文以上の音声流れる問題や、疑問文の意図を理解した上で応答として適切な絵を選ぶ問題も困難度が高かったと報告されている。また、「ほとんどの児童が基本的な語彙を理解できていると言える。」とも報告されている。

「スピーキングに関する調査研究」では、英語で発せられた質問に児童がどの程度適切に返答できるかを見た。その結果、名前、色、あいさつ、動物、天気などに関するものは正答率が高かったが、“What do you want to be?” “How much is this bag?” “What subject do you like?” “How much is this ball?” “What subject is this?” などの質問は正答率が低かった。

「児童の意欲と指導形態に関する調査研究」では、「英語が使えるようになりたいか」という質問に肯定的な回答をした児童は 76.7%、「英語の授業が好きか」との質問に肯定的な回答をした児童は 66.2%、「英語の授業に進んで参加しているか」との質問に肯定的な回答をした児童は 63.4% だった。

この報告から、中学校入学時の生徒のリスニングについては、単語の聞き取りはできるけれども、まとまりのある文を聞いて理解することには困難を感じる生徒が多いと推測できます。スピーキングについては、授業の中でよく扱われる題材にかかわる単語や表現であれば、英語で言えるものもありそうです。また、中学校入学時には、多くの生徒が英語が使えるようになりたいという思いを持っている反面、英語が既に好きではない生徒がある程度いることが予想されます。

### 3 小学校英語活動を経験した生徒の姿のまとめ

ここまで、神奈川県立総合教育センターや国立教育政策研究所の調査研究を中心に、小学校英語活動を経験した児童・生徒の姿を見てきました。これまで見てきた児童・生徒の姿をまとめます。

#### (1) 言語や文化についての体験的な理解の視点から

小学校英語活動を経験した生徒は、英語をたくさん聞いたり話したりしながら英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ中で、日本語と英語の音声、文字、単語、語順などの言葉の違いや面白さに気付く、外国の文化に対する興味・関心を持って中学校に入学してくると予想されます。「外国のことに学ぶこと」や「英語の表現を学ぶこと」に意欲的で、文字への関心も高いようです。しかし、文字の学習は難しいと感じている生徒もいるようです。

簡単な英語の指示は聞いて理解できますが、まとまりのある英語を聞くことは難しいと感じる生徒が多いでしょう。話すことについては、慣れ親しみの度合いが高い単語や表現であれば、生徒が発話できることも期待できます。しかし、発話できるほど慣れ親しんでいる表現は、小学校英語活動で繰り返し触れてきた身近な単語や表現に限られるでしょう。

#### (2) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の視点から

小学校英語活動を経験した生徒は、英語を聞こうとしたり話そうとしたりする態度が育成されているようです。英語を一生懸命聞いて、知らない単語が出てきても理解しようとしている姿や、積極的に英語であいさつをする姿、授業の中で自信を持って英語を話す姿にそれが見て取れます。

英語で受け答えするだけでなく、英語に自信がなくてもジェスチャーを使ってコミュニケーションを図ろうとする生徒もいることが分かりました。一方で、外国人とコミュニケーションを図りたいけれど英語に自信がないという生徒もいるようです。

#### (3) 英語の音声や基本的な表現への慣れ親しみの視点から

小学校英語活動を経験した生徒は、英語を聞いたり話したりすることに抵抗がないようです。英語の音声を聞こえたまま理解しているため、自然と英語らしい発音になったり、強勢やイントネーションを付けて英語を話したり読んだりしようとすると考えられます。

#### (4) 英語への学習意欲の視点から

すべての生徒が英語に興味・関心を持ち、中学校英語への期待や学習意欲を持って中学校に入学してくるわけではありません。しかし、将来のことや日常生活の中で外国人と接触することを想定して、「英語は大切だ」「英語を使えるようになりたい」と考えている生徒は多くいます。ただし、英語は大切であるという気持ちよりも英語が好きだという気持ちの方が、学習に対する意欲との結び付きが強いようです。英語が好きな生徒は、4技能を身に付けたいという思いが強く、いろいろな英語の学習活動に意欲的です。しかし、英語でゲームをすることは学習活動として認識していないかもしれません。また、英語が好きな生徒であっても、発話を伴う活動には難しさや負担などを感じると考えられます。英語への興味・関心が薄れてしまった生徒の中には、英語を聞くことに意欲的な生徒は多いのですが、発話を伴う活動には、英語が好きな生徒以上に難しさや負担などを感じるようです。

## 第4章 中学校英語の入門期指導のポイント

ここまで、新しい中学校学習指導要領のポイント、小学校英語活動の内容、小学校英語活動を経験した生徒の姿を確認してきました。本章では、これらの事項に基づいて、小学校英語活動を踏まえたこれからの中学校英語の入門期指導について考えていきます。

### 1 指導計画の作成

中学校第1学年の指導計画は、小学校英語活動を踏まえて適切に作成することが求められています。指導計画を作成する際は、「～を知っているだろう」とか「～ができるだろう」という英語の知識やスキル面での期待をしすぎないことが大切です。そのためにも、小学校英語活動の内容や小学校英語活動を経験してきた生徒への理解を深め、その上で中学校での3年間の英語学習を見通した指導計画の作成に取り組むことが大切です。

#### (1) 第3学年の目標を設定する

指導計画の作成は、中学校卒業時まで育成したい生徒像を考え、第3学年の目標を設定することから始めます。次に、第2学年、第1学年という順で指導計画の目標を明文化します。このような手順で指導計画を作成することで、第1学年で指導すべきことが明確になってきます。また、第1学年での指導が、第2、3学年にどのようにつながっていくかも明らかになります。

次に紹介するのは、ある中学校で9月に行われた第2学年の授業です。まとまった英文を読んで大切な情報を読み取らせる授業ですが、この事例から第1学年での指導がどのように第2学年の指導へつながっているかを考えていきます。

#### 授業の概要：中学校第2学年「初見の英文を読んで大切な情報を読み取る」

授業者は、大切な情報を読み取るための視点を体験的に理解させることをねらいとして、生徒に3人の人物がやり取りをした三つの英文メールを読ませた。生徒にとっては、いずれも初見の英文であった。授業者は、英文メールを読ませる前に、各メールを書いた人のハンドル・ネーム、出身地、英文メールの中でやり取りされている大切な情報を読み取って、その情報が書かれている部分に下線を引くように指示をした。生徒が英文メールを読んで数箇所の下線を引いたところで、授業者は、大切な情報を読み取るためには、三つの英文メールでやり取りされている共通のトピックを考えることが大切であることを生徒に伝えた。

#### 生徒の様子

大切な情報を英文中から読み取る活動は、生徒にとって初めての活動だった。多くの生徒は、ハンドル・ネームと出身地が書かれている部分は見つけて下線を引くことができた。しかし、英文メールの中でやり取りされている大切な情報については、期待する箇所とは違う部分に下線を引く生徒が多く見受けられた。大切な情報を読み取ることは、中学校第2学年の生徒にとって難しい課題であることがうかがわれた。それにもかかわらず、ほとんどの生徒が、大切な情報を読み取るために、繰り返し三つの英文メールを読んでいた。その後、授業者が大切な情報とはどのようなものかを説明すると、期待する英文に下線を引く生徒が増えた。

この授業では、生徒が三つの初見の英文メールを繰り返し読む姿が見られました。理由は三つ考えられます。まず挙げられるのは、生徒に読み取らせる三つの情報のうち、二つは簡単に読み取れる情報であったことです。二つ目の理由としては、授業者が意図的に大事な情報を読み取るコツを事前に説明しなかったことが挙げられます。そのため、自分の力で該当する英文を見付けようと、英文を繰り返し読むことにつながったと考えられます。そして、三つ目の理由は、生徒が英語を読むことに意欲的な態度を持っていたということです。

授業者は、学年が進行するにつれてまとまった英文を読むことを意識して、1年次から次のような指導をしてきました。

教科書以外にも、教科書の対話文を基に、場面設定を少し変えた英文を読ませた。

次の理由から、英文は1文ずつ提示した。

- ・1年次ではまとまった英文を読むのに時間が掛かる生徒が多い。
- ・英語に苦手意識を持ってしまった生徒に、英文を読んで理解できたという経験をさせたい。対話文などのセリフを覚えてジェスチャーを付けて発表させたり、読んだ内容をグループのメンバーに伝えたりするなどの課題を与えて、積極的に英文を読ませる工夫をした。

このような指導を継続的に行ってきたことで、生徒は意欲的に英文を読もうとする態度を身に付け、初見の英文でも自分で繰り返し読むことができたと考えられます。

また、三つのメールに共通のトピックを考えさせることは、文章のトピックや一貫性を意識させることにもつながります。今後、更に学年が進んだときに、この2点を意識させて英語の文章を書かせることで、内容的にまとまりのある一貫した文章を書くことへ発展させていくことも期待できます。

## (2) 生徒の実態に基づいて指導計画を作成する

指導計画は、生徒の実態に基づいて作成することで、適切な指導計画になり、効果的な指導が可能になります。現在、小学校では、新しい小学校学習指導要領が完全実施される平成23年度に向けて、小学校英語活動の時間数を増やしています。そのため、言語や文化についての体験的な理解、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、英語の音声や基本的な表現への慣れ親しみの度合いなどが、今までと異なる可能性があります。このため、特にこれからの数年間は、小学校英語活動を経験してきた生徒を理解するための取組みを充実させ、教員間で情報を共有しながら、指導計画の修正及び改善を図っていく必要があります。

## (3) 小学校英語活動を経験した生徒の実態をとらえる

小学校英語活動を経験した生徒の実態をとらえる方法として、授業に取り組む様子の観察、課題への取組状況やテストの解答状況などの分析、アンケート調査の実施などが挙げられます。生徒を観察する際は、小学校英語活動の目標にある三つの柱を視点として利用するとよいでしょう。

また、近隣の小学校の協力を得て、指導計画や学習指導案を提供してもらうことや英語活動の授業見学をさせてもらうことなども有効な方法です。市町村教育委員会などの教育機関が主催する研修会に参加して、小学校英語活動の内容への理解を深めたり、小学校英語活動を経験した生徒の情報を集めたりすることも考えられます。

## 2 小学校英語活動を踏まえた入門期指導のポイント

小学校英語活動ではぐくまれたものをいかし、中学校3年間の英語学習の基礎を作っていくための入門期指導のポイントをまとめました。

### (1) 入門期の授業計画を立てるために

小学校英語活動を踏まえた入門期の授業計画を検討、作成、実施する際、次のような視点から、指導内容や学習活動を考えるとよいでしょう。

#### 【 英語の学習意欲などを把握する 】

中学校入学当初に様々な活動を行い、英語の学習意欲、英語への自信、苦手な英語の活動などを把握することで、その後の学習活動の目標設定や指導内容の修正などに役立てます。

#### 【 4技能を取り入れた学習活動を積極的に行う 】

小学校英語活動を通じて、「英語が使えるようになりたい。」という気持ちがはぐくまれてくることが期待できます。このような生徒の思いを大切にするために、早い時期から積極的に4技能を扱った学習活動を取り入れて、生徒が英語を使う機会をたくさん設けます。

#### 【 生徒が慣れ親しんできた単語や表現を把握する 】

生徒が小学校で慣れ親しんできた単語や表現を把握することは、分かりやすい例文の提示や口頭練習で使う単語や表現の選択などに役立ちます。また、簡単な英語の指示に反応できることも期待できるので、中学校入学当初の授業で、“Listen to me.” “Look at this.” “Repeat after me.” などの指示を出して、生徒が反応する表現を把握します。そうすることで、早い時期から英語で指示を出す授業展開ができます。

#### 【 生徒が慣れ親しんできた単語や表現を活用する 】

次の理由から、小学校で生徒が慣れ親しんできた単語や表現にもう一度触れさせることが大切です。

小学校で慣れ親しんだ単語や表現の定着を図る。

英語を聞いたり話したりすることへの意欲を高める。

内容の豊かな言語活動を可能にする。

小学校で慣れ親しんだ単語や表現を文字で確認したり、文法面から理解させたりする。

ただし、それぞれの小学校で、学習してくる単語や表現が異なることや基本的な表現への慣れ親しみの度合いが違うことが予想されます。例えば、“What day is it today?” という質問に、“Tuesday.” “April 10<sup>th</sup>.” と答える生徒もいるかもしれませんが、生徒全員が英語で曜日や日付を言えるとは限りません。小学校で慣れ親しんできた単語や表現を活用させるには、生徒の答えを、“Oh, it's Tuesday. Thank you.” のように言いながら、生徒全体に確認し、発話を伴う活動で使わせたい単語や表現は十分に発話練習をすることが大切です。また、英語のあいさつや自己紹介は、使えるぐらいに慣れ親しんでいる表現があることが期待できるので、これまでの指導や学習内容を見直す必要があるでしょう。

### 入学当初の英語のあいさつの学習を見直す

生徒は、小学校英語活動を通じて、“Hello.” “Nice to meet you.” “How are you?” などのあいさつ表現に慣れ親しんでくることが期待されます。そのため、これまで中学校入学当初に行っていた英語のあいさつの学習は、そのねらいなどを見直します。

#### ねらいの例

- ・教師が英語であいさつをしたとき、生徒も英語で答えるかを見て、英語を聞くことや話すことに対する意欲、英語のあいさつ表現への慣れ親しみの度合いを確認する。
- ・中学校の英語学習が始まるという雰囲気を作る。

最初の授業は、“Nice to meet you.” を使う最適な場面なので、この表現を使わせる活動をするとよいでしょう。

#### 指導例 1

生徒にあいさつをしながら、英語のあいさつへの慣れ親しみの度合いを確認したら、あいさつ表現を言う練習をする。

ペアをどんどん変えながら、中学校で初めて会う人とは、“Nice to meet you.” “Nice to meet you, too.” を使って自分の名前を言わせる。小学校が一緒だった人とは、“Hello. How are you?” と “Fine.” “Happy.” などを使ったやり取りを行わせる。

名刺を作って、初めて会う人とは名刺交換をすることも考えられます。

#### 指導例 2

“Hello. How are you?” と “Fine.” “Happy.” などを使ったやり取りに十分慣れ親しんでいるようなら、“Great.” “So-so.” “Not bad.”などを導入する。

### 入学当初の教師の自己紹介を見直す

生徒は、小学校英語活動を通じて、自己紹介の表現に慣れ親しんでくることが期待されます。そのため、これまで中学校入学当初に、英語で行っていた教師の自己紹介については、学習のねらいなどを見直します。

#### ねらいの例

- ・英語で自己紹介をしながら、知らない単語が出てきても理解しようとするなどの英語を聞こうとする態度や理解の状況を確認する。

生徒に自己紹介をさせることも考えられますが、中学校入学当初にすべての生徒が自信を持って英語で自己紹介できるとは限りません。話す内容を限定する、考える時間を与える、使う表現を十分練習する、グループでの自己紹介にとどめるなどの配慮が必要です。

#### 指導例

写真などを見せながら、生徒が学習していない単語を少し交えて自己紹介をする。

自己紹介の途中で、“Do you like ...?” や “Do you have ...?” などの小学校で慣れ親しんだ表現を使って生徒に質問をして、英語を話す機会を与える。



【 「分かった」「できた」「上手になった」と実感させる 】

生徒に「分かった」「できた」「上手になった」と繰り返し実感させて、英語への学習意欲を高めていきます。また、生徒がこのような経験を積み重ねることで「英語が楽しい」「英語が好きだ」という気持ちを持つことが期待できます。このような気持ちを持たせるためには、英語学習に対する不安への配慮も含めた指導や教材などの工夫も必要になるでしょう。次の表は、中学校第1学年の入門期指導において生徒に思わせたいことと、そのための指導の留意点の例を表にしたものです。

指導	生徒に思わせたいこと	指導の留意点の例
英語を聞くことができたと思わせる指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞いたことがある</li> <li>聞いた英語の内容が分かった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の学習事項の活用</li> <li>適切な言語の使用場面の設定</li> <li>視聴覚教材等の活用</li> <li>オーラルイントロダクション</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
英語を話すことができたと思わせる指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>覚えて言えた</li> <li>滑らかに言えた</li> <li>相手に通じた</li> <li>言葉のやり取りができた</li> <li>前より上手にできた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の学習事項の活用</li> <li>基本文等の暗唱と十分な発話練習</li> <li>英語の音に意味を乗せる指導</li> <li>教員と生徒及び生徒同士のコミュニケーション場面の設定</li> <li>同じ表現を繰り返すことが自然な言語の使用場面の設定</li> <li>会話を継続させる方法の指導</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
英語を読むことができたと思わせる指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>つづりを見て読み方が分かった</li> <li>上手に読めた</li> <li>読んだ内容が分かった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の学習事項の活用</li> <li>音と文字の関係の指導</li> <li>様々な形態で行う十分な音読練習</li> <li>目標を持たせた音読練習</li> <li>教科書以外の文の活用</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
英語を書くことができたと思わせる指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>音を聞いてつづりが推測できた</li> <li>単語のつづりが書けた</li> <li>文を書くことができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の学習事項の活用</li> <li>音と文字の関係の指導</li> <li>単語を書く意欲を持たせる工夫</li> <li>辞書の活用</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
文法などが分かったと思わせる指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語の音声の特徴が分かった</li> <li>単語を覚えた</li> <li>英語の文構造が分かった</li> <li>文法ルールが分かった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の音素や音変化などの指導</li> <li>英語の音に意味を乗せる指導</li> <li>単語を覚える意欲を持たせる工夫</li> <li>学習方法の指導</li> <li>チャンクとして覚えさせる工夫</li> <li>基本的な文法用語の指導</li> <li>英語を聞かせて文法ルールに気付かせる指導</li> <li>十分な口頭練習</li> <li>文字を通じた学習事項の確認</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
英語でコミュニケーションをすることが楽しいと思わせる指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習事項が使えた</li> <li>友達のことを知ることができた</li> <li>言葉のやり取りができた</li> <li>楽しく会話ができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な言語の使用場面の設定</li> <li>インフォメーションギャップ</li> <li>意味のある言葉のやり取り</li> <li>会話を継続させる方法の指導</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>

また、11 ページでも触れたように、「英語を使ってゲームをすること」は、生徒の意識の中ではあまり学習活動としてとらえられていないことが推測されます。英語を使ってゲームをする際は、学習活動として意識させるために、事前にゲームの目的を伝えたり、ここに挙げたポイントに基づき、英語を使ってゲームをすることで、何が分かったか、できたか、上手になったかなどを振り返らせたりすることが考えられます。

## 【 ステップアップを図る 】

小学校英語活動で慣れ親しんだ単語や表現に再度触れさせるとき、題材と言語材料が小学校のときと全く同じでは、生徒の意欲を削いでしまうかもしれません。例えば、自己紹介をさせるとき、名前や好きな食べ物を言うのであれば、小学校のときと変わらなくなってしまうでしょう。同じ小学校から来た生徒同士であれば、そのような情報は既に知っていることも予想されます。そこで、小学校英語活動と全く同じ内容にならないように、活動内容をステップアップさせます。

### 題材面のステップアップ

小学校のときと同じ題材に、中学生に合った話題を加えることで、ステップアップを図ります。例えば、28 ページの事例 1 では、自己紹介で部活動のことに触れさせています。このように、中学校から始めたことを言うことで、主な言語材料は小学校のときと同じであっても、小学校のときと違う内容の自己紹介ができます。そうすることで、生徒の意欲を削がずに、小学校で学習した単語や表現に再度触れさせることができます。

### 音声面のステップアップ

生徒は、英語の音声に慣れ親しみ、英語らしく発音する姿も見られることから、英語の音声の特徴を指導することでステップアップを図ります。コミュニケーションをすることを意識させるために、英語の音に意味を乗せる指導も考えられます。次の例は、“This is …” の表現を用いて、意味を伝えるための音声指導をすることでステップアップを図ったものです。

#### 指導例

視聴覚教材や実物を活用しながら、“This is …” という表現を繰り返し聞かせる。

教師：(自分のペンを見せて) Look. This is my pen. This is my black pen.

:(別のペンを見せて) This is my red pen.

:(生徒のペンを借りて) Is this my pen? [生徒 No.]

:(自分の教科書を見せて) This is my textbook.

:(生徒の教科書を借りて) Is this my textbook? [生徒 No.]

生徒に自分の持ち物を持たせて、それを見ながら “This is …” というように指示する。

教師：自分のペンを持って言ってください。This is my pen. [生徒 This is my pen.]

手に持つ物をいろいろ変えて、それを見ながら “This is …” というように指示する。

教師：This is my textbook. [生徒 This is my textbook.]

ペアを作り、自分の持ち物を持って “This is …” という表現を言わせる。強勢の位置が変わることで、意味がどのように変わるかを考えさせる。

教師：Make pairs and say, “This is MY red pen.” [生徒 This is MY red pen.]

THIS is my red pen. [生徒 THIS is my red pen.]

my を your に変える練習をしてから、手に持つ物をいろいろ変えてペアで練習させる。

生徒 1：(自分と相手の消しゴムを持って) THIS is my eraser. This is YOUR eraser.

生徒 2：(消しゴムを指さして) Yes. This is YOUR eraser. And THIS is my eraser.

大文字の単語は強勢を置く部分

では、実物を見せることで“*This is ...*”を使う場面を設定します。この表現を繰り返し聞かせて意味を思い出させたり、形式や使い方を理解させたりします。では、生徒に身近なものを持たせて、“*This is ...*”を使う場面を与えます。そして、実際に使わせることで、音、形式、使い方などへの理解を深めます。では、発話練習を重ね、自信を持って言えるようにしていきます。とでは、コミュニケーションを意識した練習を行うことで、意味のやり取りを行わせ、学習事項の定着を図ります。また、強勢の位置を変えることで、伝える意味が変わることを生徒に体験的に理解させ、英語の音声への理解を深めます。このように強勢の位置を意識させることで、音読のときに内容が相手に伝わるように読ませる指導へとつなげていくこともできます。

### コミュニケーションのステップアップ

コミュニケーションを円滑に継続する方法などを教えることで、自然で楽しい英語のやり取りを体験させながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成していきます。

コミュニケーションを継続する方法を教える
第1学年の生徒は、英語力がまだ十分育成されていないので、コミュニケーションを継続する方法を指導して、会話がつながっていくことを体験させます。
指導例
<p>相手が言った最後の単語を繰り返して自分のことを言わせる。</p> <p>“I like soccer.” “Soccer? I like baseball.”</p> <p>I を you に変える練習をしてから、相手が言った文を繰り返して自分のことを言わせる。</p> <p>“I have a dog.” “Oh, you have a dog. I have a dog, too.”</p> <p>小学校英語活動でジェスチャーゲームを経験してくる生徒もいます。中学校でも、英語でうまく伝えられないことを、ジェスチャーで伝える経験をさせながら、言葉によらないコミュニケーションのスキルを高めていくことが考えられます。</p>

より自然で豊かなコミュニケーションを体験させる
より自然なコミュニケーションを体験させることでステップアップを図ります。ただし、そのために導入する表現は、生徒の負担を考えて選びます。
指導例
<p>コミュニケーション活動の中で、相づち表現、褒める表現、確認表現などを使わせる。</p> <p>新たな表現は、生徒の負担にならない程度の量にとどめます。口頭で十分練習してから、必要に応じて文字で確認すると、英語表現を聞いただけで理解することが難しい、自信が持てないと感じる生徒も安心するでしょう。“Oh.” “Really?” “Excuse me?” などの表現を使わせることで、生徒は、一層楽しい英語でのやり取りを体験できるでしょう。</p>

## (2) 授業展開を考えるために

生徒は、小学校英語活動を通じて、楽しい活動をたくさん経験してきました。また、音声を中心に英語に慣れ親しんでくるので、「聞くこと」については一定の力が育成されていることが期待できます。

### 【 中学校の英語学習の内容をイメージさせる 】

中学校の英語学習はどのようなものをイメージさせて、小学校英語活動と中学校の英語学習の違いを認識させることは大切です。中学校では、英語を読んだり書いたりすることが本格的に始まり、文法を勉強し、テストがあります。教科書やノートも使います。このような説明をしながら、中学校の英語学習は小学校英語活動とは違うことがたくさんあることを理解させ、積極的に英語を勉強することで英語が次第に使えるようになっていくことを伝えます。

### 【 聞くことを中心に授業を組み立てる 】

小学校英語活動を体験した生徒は英語を聞くことに抵抗がないことが期待できます。このことから、入門期の指導は「聞くこと」を中心に授業を組み立てます。基本的には「聞くこと」から「話すこと」へ展開しますが、中学校では「読むこと」や「書くこと」も指導するので、英語を聞いたり話したりする活動の間に、英語を読んだり書いたりする活動を入れることも可能です。こうすることで、聞いただけでは十分理解できなかった表現を、文字を通して確認したり練習したりすることができます。

## (3) 指導方法を考えるために

小学校英語活動を通じて、生徒は積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度などを身に付け、英語学習にも意欲的な姿が見られますが、難しさや負担を感じることもあるようです。

### 【 英語をたくさん聞かせる 】

小学校英語活動を通じて、生徒は英語を聞くことに慣れていることが期待できます。中学校入学当初から、ティーチャートーク、オーラルイントロダクションなどの英語を聞かせる場面を積極的に設けます。ただし、英語をたくさん聞かせることを意識しすぎて教師だけが英語を話していることにならないように、生徒とやり取りをしながら英語を聞かせるようにします。

### 【 英語を聞いて理解させる 】

小学校英語活動を通じて、生徒は英語の内容を推測しながら聞こうとする態度を身に付けてくることが期待できます。このような態度をいかすために、次の点に気を付けます。

#### 適切な言語の使用場面を設定する

適切な言語の使用場面を設定することは、意味を伴ったやり取りを行わせるために重要ですが、生徒にとって身近な場面を設定することで、聞いた英語の内容を推測しやすくする効果もあります。小学校英語活動でも、新しい英語表現の導入時には、その表現の適切な使用場面を設定します。例えば、“What’s this?” という表現を導入するとき、学級担任は絵カードを児童に見せて “What’s this?” と繰り返し質問します。その際、絵カードの一部を隠すことで、“What’s this?” を使う自然な場面を作り出し、その意味や使い方を推測しやすくします。

#### 視聴覚教材などを活用する

視聴覚教材などを活用すると、生徒の注意を引き付けて英語を聞かせることができるので、生徒の気付きを促して、内容理解へと進みやすくなります。主な視聴覚教材には、絵カード、フラッシュカード、写真、実物、地図などがあります。また、ジェスチャーや表情、デモンストレーションなども同様の効果が期待できます。

#### 繰り返し聞かせる

学習する単語や表現は、繰り返し聞かせます。何度も聞くことで、生徒は単語や表現の音に慣れていき、意味や使い方も理解していきます。

#### 短い文で聞かせる

まとまりのある英文を聞いて理解することに難しさを感じる生徒がいると考えられるので、短い文で英語を聞かせます。必要に応じて単語だけ繰り返したり、大事な部分を強調したりします。

### 【 コミュニケーションをする機会を設ける 】

小学校英語活動を通じて、生徒は言いたいことを伝えようとする態度を身に付けてくることが期待できます。このような態度をいかすために、次の点に気を付けます。

#### 英語を話す場面を設定する

教師と生徒又は生徒同士でやり取りをする場面を設けます。例えば、教師が生徒に英語で質問をしたり確認をしたりしながら授業を進めることで、生徒が英語を話す場面を設けます。また、ペア、グループ、一斉などの様々な学習形態を取り入れることで、生徒間にコミュニケーションが生まれる場面を設けます。

#### 日本語での応答を許容する

小学校英語活動では、学級担任が英語で質問したことに、児童が日本語で応答する場面がよく見られます。その場合、学級担任は、自分で英語に言い直して児童に聞かせ、児童に英語で言い直すことは求めません。こうすることで、英語を繰り返し聞かせるとともに、質問に答えようとする児童の意欲を大切にします。中学校の入門期においても、コミュニケーションを図ろうとする意欲を大切にすることを意識して指導に当たるとよいでしょう。例えば、生徒とコミュニケーションを図ることをねらいとしたQ & Aであれば日本語での応答を認め、日本語の応答は教師が英語で言い直します。ただし、学習事項を使わせることをねらいとしたQ & Aであれば、日本語の応答を英語で答え直すように促します。ねらいを明確にしてバランスよく使い分けることが大切です。

### 【 英語の学習意欲を高める 】

英語への学習意欲を大切にするだけでなく、高めることも大切です。そのためには、英語を学習する理由を考えさせたり、普段の学習活動への意欲を持たせる工夫が大切です。

### 英語を勉強する理由を考えさせる

英語を勉強する理由を考えさせるために、自分たちの日常生活の中で英語がたくさん使われていることに気付かせることや、母語が異なる人同士がコミュニケーションを図る際に英語を用いることが多いことを教えることが考えられます。また、自分の将来と結び付けて英語を勉強する理由を考えている生徒も多いので、英語を勉強することで自分の将来の可能性が広がることに気付かせたり、英語を使えることで自分や他の人のためになることを想像させたりする指導も考えられます。英語を勉強する理由を自分の将来と結び付けて考えさせることは、キャリア教育の一環としてとらえることができるので、学校のキャリア教育の指導計画に位置付けて実践することも考えられます。

### 目標や見通しを持たせる

暗唱や発表、展示などの目標を持たせると、上手に読めるようになるまで自主的に練習したり、英語を意欲的に書いたりする姿が見られます。また、まとまった文章を書かせるときなどは、まず書く内容を持たせて、使う表現を口頭練習したり、どのように書くとよいかなどを指導したりすることで、英語を書くことができそうだという見通しを持たせることも効果的です。

### 友達と一緒に取り組ませる

ペアやグループで活動することで、自分たちで考えたり教え合ったりする姿が見られます。一人では難しいことも、友達と一緒に取り組むことで難しさが軽減し、楽しく取り組むことができます。

### 知っている単語や音とつづりが一致する単語を活用する

例えば、フラッシュカードを用いて単語を読む練習をするときに、知っている単語やつづりから読みが推測しやすい単語が出てくると、意欲的になる生徒が見られます。分かる単語や読める単語が生徒の意欲を引き出すことに一定の効果があると考えられます。つづりを見て読み方を当てるといったゲーム的な要素を取り入れることで、生徒が更に意欲的に取り組むことも期待できます。

### 取り組んだ結果が見えるようにする

例えば、単語を書く練習をさせるときに、シールやスタンプなどを利用して、どのくらい練習したかが視覚的に分かるようにすることで生徒の意欲が高まることを期待できます。

## 【 飽きない工夫をする 】

学習事項の定着を図るためには、同じ言語材料に繰り返し触れさせることが必要です。その際、活動内容に変化を持たせて、生徒が飽きないようにします。例えば、音読の場合、同じ文を繰り返し読むことに飽きないように様々な読み方をします。活動形態で見ると、コーラスリーディング、バズリーディング、ペアによる音読練習などが挙げられます。読み方で見ると、リードアンドルックアップ、フレーズリーディング、ペアになって大きな声で読んだり小さな声で読んだりするなどが挙げられます。シャドーイングやリピーティングを交えて変化を持たせてもよいでしょう。書かれた内容が表現されるように、強勢、イントネーション、音調などを考えて読む指導も大切です。このように様々な形で音読を繰り返すことが、リスニング力の向上にも一定の効果をもたらすことを生徒に実感させると、学習方法を意識させることにもつながるでしょう。

## 【 難しさや不安を軽減する 】

「聞くこと」については、まとまりのある英文を聞いて理解することは難しいと感じる生徒が多いと考えられます。生徒が分かる表現や視聴覚教材などを活用し、簡潔な文で英語を聞かせます。大切な部分は繰り返したり強調したりしながら理解を促します。

「話すこと」については、英語が好きな生徒であっても、意欲的な生徒が少なくなります。小学校高学年になると、間違えることを恐れたり上手に話せるかどうか不安になったりする児童が見られるようになります。中学校第1学年の生徒にも同様の傾向があると考えられ、このような不安に配慮して、段階的な指導をすることが必要です。

「読むこと」や「書くこと」については、知っている単語や音とつづりが一致する単語を中心に指導をすることで、生徒への負担軽減を図ります。また、コーラスリーディングでは大きな声で読んでいる生徒も、バズリーディングなどの個人で読む活動になると単語の発音が分からなくなりスムーズに読めなくなることがあります。個人で読ませる場合は、直前に読めない単語がないかを確認して発音練習を行うことで読む活動に取り組みやすくします。

## 【 文字やつづりの学習をきめ細やかに支援する 】

アンケート調査の結果を見ると、多くの生徒が英語を「読むこと」と「書くこと」に意欲的ですが、アルファベットの学習の段階で既に難しさを感じている生徒もいます。

### 文字と音が一致するかを確認する

小学校英語活動では、アルファベットなどの文字や単語は、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いることになっています。小学校では、英語ノートを利用した場合、アルファベットの文字と音が一致するところまで指導することが期待されますが、小学校によって指導内容に幅があることも予想されます。中学校入学直後に、どの程度アルファベットの文字と音を一致させられるかを確認することが大切です。

### ローマ字を復習する

ローマ字（ヘボン式）を復習することで、単語を読むことに興味・関心を持たせることや単語を読みやすくすることなどが期待できます。一方、英語の単語を読むときにローマ字の影響を直接受けてしまうこともあるので、ローマ字と英語は違うことを生徒に認識させることも必要です。また、ローマ字の学習は小学校第4学年（新しい小学校学習指導要領では第3学年）で行われますが、ローマ字の学習に充てる時間は少ないことを認識した上で指導をする必要があります。

### 音とつづりの関係を指導する

小学校では基本的に英語を書く学習をしないため、音とつづりの関係を学習することは中学校の学習領域になります。英語の母音の a、e、i、o、u については、複数の読み方があることを早い時期から教えるとよいでしょう。最初は、小学校で慣れ親しんだ単語の中から音とつづりが一致するものを選び、音とつづりの基本的な関係を教えます。音とつづりの関係のある程度理解したところで、音とつづりが一致しない単語を挙げて、このような単語は読んだり書いたりする練習を十分にしながら、そのまま覚える必要があることを理解させます。

### こまめにノート指導をする

つづりをきちんと書く習慣を付けるために、ノート指導はこまめに行うことが大切です。中学校第1学年では、学習事項も多くないので、授業中に単語や英文が丁寧に正しく書いているかをチェックすることも可能でしょう。また、自分でノートを見直したときに、何を学習したのか、何が大切なのかが分かるように、ノートの取り方を指導したり、工夫させたりするとよいでしょう。

### 【 コミュニケーションを意識した文法指導をする 】

実際のコミュニケーションの中で文法事項を使えるようにするためには、機械的な練習や文法ルールの暗記だけではなく、コミュニケーション活動の中で繰り返し活用させながら理解と定着を図ることが大切です。そのためにも、文法事項の導入時からコミュニケーションを意識した指導をします。例えば、まず、生徒に学習する文法事項を含んだ表現を繰り返し聞かせて、音声や意味を理解させます。文法事項に気付かせるため、大切な部分を強めたりゆっくり言ったりすることも有効でしょう。適切な言語の使用場面を設定して聞かせれば、どのようなときに使うのかを理解させるのに役立ちます。生徒が文法事項に気付いたら、意味と形式を確認し、理解を促すために十分な口頭練習を行います。口頭練習は、意味を伝えることを意識して行います。その後で、文字を使って学習事項を確認してもよいでしょう。十分に練習をしたら、コミュニケーション活動などで学習事項を使う機会を設けます。

#### 指導例

複数形を導入する。一つのものが描かれている絵カードと、二つ以上のものが描かれている絵カードを用意する。

様々な絵を見せながら、描かれているものとその数を英語で繰り返し聞かせる。

生徒に、絵に描かれているものを言わせる。既に複数形の s に気が付いている生徒もいると予想されるが、この時点では、生徒が複数形の s を付けて言うことを期待しない。

生徒が絵を見て言った英語を教師が正しい形で繰り返し、生徒全員に言わせる。そして、一つのもので二つ以上のものではどこが違ったかを考えさせる。

この時点で、まだ気付かない生徒がいると予想されるので、再度、絵を見せて、単数形と複数形の英語を聞かせる。このとき、気付いてほしい部分を強調して言う。

生徒が気付いたことを発表させてから、教師が簡単に説明をして、練習をする。

教師：(赤ペンを見せて) I have a red pen.

生徒：(赤ペンを持って) I have a red pen.

教師：(黒ペンを2本見せて) I have two black pens.

生徒：(黒ペンを2本持って) I have two black pens.

教師：(次に示したペアのやり取りをデモンストレーションで示す。)

生徒1：You have a red pen and two black pens.

生徒2：Yes. I have a red pen and two black pens. You have two red pens.

生徒1：Yes. I have two red pens.

ペアやグループになって、手に持つものを変えながら十分に練習をする。生徒が慣れてきたら、“How many?” を使ったクイズ形式で練習をさせるなどの変化を持たせる。



### 【 中学校の英語の学習方法を身に付けさせる 】

小学校英語活動は、その目標から、児童に家庭学習をさせることはほとんどないと予想されます。そのため、中学校入学時に、英語は家庭学習が大切だという意識が乏しい、家庭で英語を学習しようという意欲はあるけれど学習方法が分からない、という生徒がいると予想されます。英語が使えるようになるためには、家庭学習が不可欠であることを生徒に伝え、学習方法を指導していくことが大切です。

「平成 20 年度神奈川県公立小学校及び中学校学習状況調査 結果のまとめ 中学校」(神奈川県教育委員会 2009b p.69)によると、中学校第 2 学年のデータですが、「宿題ができれば、宿題をする」生徒が 80.8%でした。宿題があればするという生徒については、宿題を出すことで、家庭学習の習慣付けに一定の効果が期待できます。

ただし、生徒に家庭学習をさせるためには、適切な学習方法を身に付ける指導を行うことが必要です。その際、学習方法を説明するだけでなく、授業の中で、実際に体験させることが大切です。例えば、家で単語の復習をするように指示をする場合は、授業中に、単語の意味を調べさせる、単語を 5 回ずつ書く、発音が分からない単語にチェックマークを付ける、など具体的な復習の仕方を練習させます。このような指導を継続して行い、生徒に英語の学習方法を身に付けさせていきます。また、このように具体的かつ体験的な学習方法の指導をすることで、英語は家庭学習が大切だという意識が乏しい生徒や英語の学習方法が分からない生徒に、家庭学習への意欲を持たせることが期待できます。



## 第5章

## 中学校第1学年の実践事例

小学校英語活動を経験した生徒たちは既に中学校に入学してきており、そのことを踏まえた指導が行われています。本章では、中学校第1学年の実践事例を見ながら、これからの中学校英語の入門期指導について考えを深めていきます。事例1から事例5は、授業の概要を紹介しています。事例6と事例7は、単元全体の展開を示し、小学校英語活動を踏まえた具体的な指導を見ていきます。なお、第4章で提示した小学校英語活動を踏まえた入門期指導のポイントは、各事例の主なものを【 】で示しました。

### 事例1「グループによる自己紹介」

【4技能を取り入れた学習活動を積極的に行う】【ステップアップを図る】【英語の学習意欲を高める】

授業の概要
グループで自己紹介の対話文を作成、発表させた事例である。授業者は、自分のことを話す際、部活動のことに触れることと部活動に使う道具などをクラスの全員に見せるという課題を与えた。対話文は、小学校や中学校でこれまで学習してきた事項を使って原稿を書かせた。事前にプレゼンテーションスキルについて指導し、それを意識して発表するように指導をした。発表後は、見ていた生徒に、各グループの良かった点や改善すべき点を発表させていた。
生徒の様子
中学校に入学して初めての発表活動だったが、生徒は意欲的に取り組んでいた。自己紹介の対話文を作るときには、グループ内で生徒同士が教え合う姿が見られた。自分たちで作成した対話文を繰り返し読みながら暗記し、本番前も熱心に練習をしていた。ほとんどの生徒が英語らしい発音で発表することができた。生徒はバスケットボールや楽器などを使ったパフォーマンスを見せてくれて、発表する生徒にも見ている生徒にも楽しい発表だった。発表者に対する良かった点や改善すべき点についての発言内容から、生徒は発表者が話した内容をよく理解していたことと、プレゼンテーションスキルの視点をういて発表を評価していることが分かった。

小学校英語活動を踏まえた点として、次のことが挙げられます。

中学校の英語学習への意欲を大切にし、自己紹介の対話文の作成、暗唱、発表を通して、四つの技能をすべて取り入れている。

小学校英語活動でも自己紹介をすることを踏まえ、中学校の部活動を題材に取り入れることで、小学校のときと同じ内容にならないようにしている。

英語で対話文を発表するという目標を持たせることで、学習活動への意欲を高めている。

このほかに、授業者は、学び合う態度の育成とプレゼンテーションスキルの向上を中学校3年間の英語学習の目標の中に入れていたことから、入門期から授業中に生徒が学び合う場面を作り出したり、プレゼンテーションスキルを意識した発表をさせたりしています。このように、入門期においては、小学校英語活動を踏まえた視点と中学校における3年間の英語学習に向けた視点から、授業計画を立てていくことが必要です。

## 事例2 「豊かなコミュニケーションを意識した授業展開」

【「分かった」「できた」「上手になった」と実感させる】【英語を聞いて理解させる】【コミュニケーションをする機会を設ける】

授業の概要
授業者は、自己紹介と外国の学校の説明を聞くことの二つの学習活動を行った。自己紹介は、生徒が順に前に出てきて、あらかじめ決められた生徒たちが順番に質問をするというインタビュー形式で行われた。質問をする生徒には、自己紹介をする生徒が変わるごとに同じ質問をさせていた。授業者は、自己紹介が終わるたびに、聞いていた生徒たちに向かって自己紹介の内容に関する質問をした。授業の後半では、写真を見せながら外国の学校の様子について説明をした。その際、生徒がまだ学習していない単語も少し交えながら説明をした。全体を通して、授業者は、簡単な英語を使って生徒に質問や確認などを頻繁に行いながら授業を進めていった。生徒が日本語で答えたときは、そのまま受け入れて対応する場面と、英語で言い直すように促す場面が見られ、生徒とコミュニケーションを図る質問と、既習事項を使わせる質問を区別していた。
生徒の様子
自己紹介活動では、質問する生徒が同じ質問を繰り返すことで、次第にタイミングよく大きな声で質問できるようになっていく様子が見られた。外国の学校の説明を聞いているときは、授業者がまだ学習していない語句を交えても、生徒の集中は途切れず、全員興味を持って聞いており、写真を見ながら英語の内容を理解しようとしている姿が見られた。また、多くの生徒が、外国の学校の様子を聞いて、日本の学校との違いを知り、興味を持ったようであった。授業中、生徒は授業者が話す英語をよく聞いており、英語を聞こうとする態度が身に付いていることが分かった。授業者は、生徒に頻繁に英語で質問をしたり確認をしたりするが、それに対して生徒は元気よく答えており、コミュニケーションに対する意欲的な態度が見られた。授業者の質問に日本語で答えたときは、授業者に英語で答えるように促されて答え直す場面もあった。ほかにも、単語をよく知っている、英語を話すことを恥ずかしくない、英語を話すことを楽しんでいる、英語らしく発音をしようとする、といった姿が見られた。

小学校英語活動を踏まえた点として、次のことが挙げられます。

インタビュー形式の自己紹介にすることで、生徒が同じ質問を繰り返すことが自然になり、英語の質問が次第に上手になるようにしている。

内容の豊かなコミュニケーションを図るために生徒が学習していない単語も時々交えるが、短い文で英語をたくさん聞かせながら、写真、ジェスチャー、表情、声の調子などを活用して、生徒が英語の内容を理解しやすいようにしている。

頻繁に生徒に英語で質問したり確認したりすることで、授業者と生徒の間にやり取りが生まれる場面を作り出している。また、自己紹介をインタビュー形式にして生徒間でやり取りをするようにしている。

その他のポイントとして、生徒が知らない単語を交えて話すことで、これから教科書に出てくる単語を先取りして聞かせて慣れ親しませていることが挙げられます。

### 事例3 「理解を促すための小道具の活用」

【英語を聞いて理解させる】【飽きない工夫をする】【難しさや不安を軽減する】

授業の概要
<p>小道具を活用して生徒の理解を促した事例である。授業は、日本人の英語教員によるTT(ティームティーチング)で行われ、複数について学習した。授業は、これまでの学習事項を用いて、生徒にたくさん質問することから始まった。授業者は、複数形を導入する際、英語を繰り返し聞かせて複数の概念や言い方に気付かせた後で、口頭練習を十分に行った。次に、授業者は、メニュー、ハンバーガー、ドリンクなどの小道具を用いてハンバーガー店での客と店員の対話を行った。生徒は、ハンバーガーやドリンクなどの小道具が客と店員の間で受け渡されるのを見ながら英語のやり取りを聞いていた。その後、ハンバーガー店での客と店員の対話文を、モデルリーディング、コーラスリーディング、バズリーディングを通して練習した。授業者は、バズリーディングの前に読めない単語がないかどうかを確認していた。その後、対話文を暗唱してみんなの前で発表するという目標を与えて、ペアでの音読練習に移った。読む練習を十分に行ったところで、生徒に前に出てきてもらい、小道具を使って注文するものを変えさせたりしながら、暗唱した対話を演じさせた。最後は、ワークシートにハンバーガー店でのオリジナル対話文を書かせ、学習事項を確認した。</p>
生徒の様子
<p>授業の最初に、ウォーミングアップとして、授業者と生徒たちとの簡単なやり取りを行った。その際、生徒が授業者との英語のやり取りを楽しんでいる様子が見られた。</p> <p>複数の学習では、授業者がtwo hamburgers を例として提示すると、生徒から「三つならどうなるの?」という質問があった。授業者が簡単に解説をして、ハンバーガーの数を三つ、四つと増やすと、生徒は大きな声で複数形を言う練習をしながら複数の概念や言い方を理解していった。</p> <p>ハンバーガー店での対話のデモンストレーションでは、生徒は授業者を見ながら、英語をよく聞いていた。授業者が対話の内容を確認したところ、生徒は内容を十分理解していた。</p> <p>音読練習では、大きな声で対話文を読んだり英語らしく発音しようとしたりする生徒が多く見受けられ、恥ずかしがらずに英語を言う態度が身に付いていることが分かった。個人で音読練習をする前に、読めない単語はないかを確認したときは、数名の生徒が質問をしていた。</p> <p>十分に音読練習をすると、生徒は前に出てきて小道具を使い対話を演じた。多くの生徒が、対話の中で複数形を使うことができていた。また、オリジナル対話文を書いて、複数の形式を確認したが、複数のsを付け忘れていた生徒はわずかであった。</p>

小学校英語活動を踏まえた点として、次のことが挙げられます。

<p>ハンバーガー店での客と店員のやり取りという生徒にとって身近な対話を、小道具を使いながら聞かせることで、英語の内容を更に推測しやすくしている。</p> <p>音読練習の形態を変えることで、音読を繰り返しても飽きないようにしている。</p> <p>個人で音読をする前に読めない単語を確認している。</p>
---

その他のポイントとして、暗唱と発表という目標を持たせることで、生徒に自主的に音読練習をするように促していることも挙げられます。

## 事例4 「生徒の意欲に基づいた具体的な目標設定」

【英語の学習意欲などを把握する】【英語の学習意欲を高める】【難しさや不安を軽減する】

授業の概要
<p>1クラス2展開の少人数クラスの授業である。授業者は、4月に生徒の実態を把握することをねらいとして、自己紹介を5文の英語で書かせた。その際、英語で表現できないことは日本語で書いてもよいことにしたが、生徒はたいへん意欲的で、日本語を使った生徒は一人もいなかった。そこで、2学期は、生徒が書くことに意欲的であることを踏まえて、自分のことを10文の英語で書くという目標を設定した。しかし、授業者は、中学校第1学年の生徒にとって英語で10文を書くことは負担が大きいと予想し、次の工夫や配慮を行った。</p> <p>生徒の意欲を高めるために、書いた英文は文化祭で展示するという目標を与えた。</p> <p>自分に関する話題を五つ考えて、それぞれ2文ずつ書けば英語で10文を書くことができる、という書き方の指導をした。</p> <p>4月に書いた自己紹介の文を参考にしてもよいことにした。</p> <p>和英辞典を用意するとともに、ALTが来校する日に活動を設定し、TTで生徒への支援をする体制を組んだ。</p>
生徒の様子
<p>中学校第1学年の生徒にとって、英語で10文を書くことは簡単なことではない。生徒は、自分のことを10文の英語で書くという課題を知ったときに、「え～！」という声を上げていた。しかし、文化祭で展示するという目標とともに、今日の授業の目標、自己紹介で10文を書くためのコツ、4月に書いた自己紹介文を参考にしてもよいことなどを知ることで、課題に取り組む見通しを持ち、自己紹介文を書けそうだという気持ちになった様子が見えたと。授業者が、ALTと二人で支援することを伝え、自己紹介を書き始めるように指示をすると、生徒はすぐに授業者のところへ和英辞典を借りに行った。生徒は、和英辞典を引いたり、ファイルに保存していた自己紹介文を参考にしたりしながら自分のことを書き始めた。授業者に積極的に質問をする生徒も多く、活動開始から10分ほどで、早い生徒は6文、多くの生徒は4文ほどを書き上げていた。</p>

小学校英語活動を踏まえた点として、次のことが挙げられます。

<p>授業者が、中学校入学時に生徒の英語を書くことへの意欲を確認し、それを基に2学期における書くことの具体的な目標を設定している。</p> <p>文化祭での展示という目標を持たせることで書く意欲を高めている。</p> <p>生徒の書くことの難しさや不安感を軽減するために、書き方のコツの指導や和英辞典の準備及びALTとのTTなどによる支援をしている。</p>
---

このように、中学校入学当初に生徒の英語の学習意欲などを把握して、単元計画の具体的な目標を設定し直すことは、生徒の実態に合った指導をしたり、次年度以降の指導計画を改善したりするために重要です。このような取り組みは、特にこれからの数年間は不可欠なものになるでしょう。また、ある程度の量の英文を第1学年のときから積極的に書かせることで、内容的にまとまりのある一貫した文章を書くための基礎的な力が養われることが期待できます。

## 事例5 「英語をたくさん聞かせて文法事項に気付かせる指導」

【生徒が慣れ親しんできた単語や表現を活用する】【英語を聞いて理解させる】

授業の概要
生徒に英語を聞かせながら文法事項に気付かせる事例である。学習する文法事項は複数であった。授業者は、まず様々な言い方で1から10の数を復習し、新たに11から20までの言い方を学習してから複数の学習に移った。授業者は、1匹の犬の絵を見せて“I have a dog.”という英語を聞かせると、次に3匹の犬の絵を見せて、“Look. Now I have three dogs.”という英語を聞かせた。「何が変わりましたか。」と問い掛けて、英語の形式面に生徒の意識を向けさせると、様々な絵カードを見せながら単数形と複数形の単語を聞かせていった。その際、生徒の理解の状況を見て、複数のsの部分強く言ったりするなどの工夫をしていた。十分に聞かせたところで、単数形と複数形の単語を生徒にも発音させた。次に、別の絵カードを見せて、“I have a CD.”と言ってから、7枚のCDが描いてある絵カードを取り出し、生徒にCDの枚数を英語で答えさせた。この後、絵カードを見ながら口頭練習を行い、簡単に複数の説明をした。英語を書く活動では、自分が持っているペンの本数を書かせ、最後はワークシートで複数の形式の確認と練習を行った。
生徒の様子
生徒は授業者が話す英語をよく聞いており、英語を聞く態度が身に付いていることが分かった。11から20までの数の言い方には、すでに慣れ親しんでいる生徒も見受けられた。複数の導入時には、様々な絵カードを見ながら単数形と複数形の単語を繰り返し聞き、語尾の違いに気付いていく様子が見られた。授業者が7枚のCDの絵を見せたときには、“Seven.” “Seven CDs.”という答えが返ってきた。その後も、授業者が絵カードを何枚も見せていくと、生徒は、数と複数のsを付けて絵に描いてある単語を言えるようになっていった。最後の書く活動では、集中してワークシートに取り組む様子が見られた。ワークシートを見ると、ほとんどの生徒が複数について理解していることが分かった。

小学校英語活動を踏まえた点として、次のことが挙げられます。

数の言い方を思い出させながら慣れ親しみの度合いを確認し、その後の複数の学習で活用している。

生徒が知っている単語や表現を活用し、英語を繰り返し聞かせて文法事項に気付かせている。

この実践では、まず数の言い方を練習していますが、既に20までの言い方を覚えている生徒もいます。しかし、すべての生徒が英語の数の言い方に十分慣れ親しんでいるわけではないので、全体で確認をしながら練習をしています。

複数の学習では、気付いてほしいことに注意を向けさせる指示や発問をしたり、大事な部分を強めたりゆっくり言ったり、生徒に言わせたりすることで気付きを促しています。また、十分な口頭練習で生徒全員の理解を図ってから、複数の概念と形式について簡単に説明をしますが、ここで生徒は自分の気付いたことが正しかったかどうかを確認できます。最後に、書く練習を通して学習事項を文字で確認します。生徒の中には、聞くことだけでは単語や表現を理解することに困難を感じたり自信を持ってなかったりすることもあるので、この点からも学習事項を書いて確認することは重要です。

## 事例6 単元名「これはあなたの～ですか」

小学校英語活動を踏まえた入門期指導のポイントは、「単元の展開」に示しました。

授業の概要
<p>本単元では、“This is …” と “Is this …?” という表現を学習した。第1時は、“This is …” と “Is this …?” の形式や使い方などの理解を促すために、身の回りの物を持って「これはあなたのものですか？」と質問する活動を行った。授業者は、既に生徒の多くが “This is …” という表現に慣れ親しんでいると予想し、学習を一步進めて、人を紹介するときにも “This is …” が使えることや、“Is this …?” のイントネーションなどを理解させていった。第2時は、誰がTシャツカードをデザインしたのかを探す活動を行った。褒める表現を使わせて、より自然なコミュニケーションを体験させた。第3時は、生徒に英語が上手に言えるようになったことを実感させるために、第2時と同じように誰が帽子カードをデザインしたのかを探す活動を行った。その後、スキットの作成と発表をさせることで「書くこと」と「読むこと」の活動を行った。なお、授業者は、入門期においては、教科書を使わずに学習を進めている。</p>
生徒の様子
<p>小学校で慣れ親しんだ英語表現を聞いて、「あ、それ習ったことがある。」と反応する生徒が多く見受けられた。生徒は、“This is …” “Is this …?” の学習を通じて、英語の音声への理解を深め、この表現が人を紹介するときにも使えることに気付いていった。Tシャツカードや帽子カードをデザインした人を探す活動では、この表現を使って積極的に対話をする姿が見られ、“Oh, your T-shirt? Nice!” のように感情豊かな対話ができている生徒もいた。同じ活動を繰り返し行うことで、生徒は、次はもっと上手にやろうと思うなど、表現することに意欲的になる様子も見られた。また、前より少し上手にできた、と自分の成長に気付くなどの効果もあった。スキットの作成は、発表という目標があるので積極的に取り組んでいた。</p>

### 単元の目標

- (1) “This is …” と “Is this …?” の表現を理解し、目の前にあるものや人を話題にして、簡単な対話ができる。
- (2) 英語表現を繰り返し使うことで、英語を話すことが上達していくことを実感する。

### 評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
慣れ親しんだ表現を使って英語を話したり書いたりしている。 < 1 >	強勢、イントネーション、または区切りなどに注意して発音することができる。 < 3 >	強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ることができる。 < 5 >	be 動詞を用いた疑問文の形式や応答の仕方を理解している。 < 6 >
友達とコミュニケーションを図っている。 < 2 >	発話に適切に対応することができる。 < 4 >		“This is …” と “Is this …?” の使い方などを理解している。 < 7 >

単元の展開（3時間）

	入門期指導のポイント	学習活動（ ）とそのねらい（ ） < >内の数字は評価規準	指導上の留意点
第1時	<p>【生徒が慣れ親しんできた単語や表現を把握する】</p> <p>【英語を聞いて理解させる】</p> <p>【コミュニケーションを意識した文法指導をする】</p> <p>【生徒が慣れ親しんできた単語や表現を活用する】</p> <p>【英語を聞いて理解させる】</p> <p>【英語を聞いて理解させる】</p> <p>【コミュニケーションをする機会を設ける】</p>	<p>小学校で慣れ親しんだ単語を言う。 クイズを行って、生徒が小学校で慣れ親しんだ単語を把握する。</p> <p>英語を聞いて、学習する表現を知る。 学習する表現に気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>教師：Look. This is my pen. Do you have a pen? 生徒：Yes. 教師：(生徒のペンを持ち)This is your pen.</p> </div> <p>ペンを手に持ち、“This is my/your pen.”の言い方を練習する。 “This is my ...”の表現と使い方を理解させる。</p> <p>“This is ...”を使った生徒の紹介を聞く。 “This is ...”が人の紹介に使えることに気付かせる。</p> <p>ブラックボックスクイズを行う。&lt; 5 &gt; 生徒の持ち物などを使い、“Is this ...?” “Yes.” “No.”の表現を繰り返し聞かせ、“Is this ...?”の意味と形式、イントネーションや答え方を理解させる。</p> <p>グループになり、友達を持ち物を持ち “Is this your ...?”と質問し合う。&lt; 1、2 &gt; “Is this your ...?”の表現を実際に使わせて理解させる。</p> <p>学習した表現をノートに書く。&lt; 1 &gt; “This is ...”と “Is this ...?”の語順を確認させる。</p>	<p>生徒の持ち物を使ってクイズをする。生徒が言った単語を繰り返して全員に聞かせる。</p> <p>学習する表現を、生徒とのコミュニケーションの中で繰り返し聞かせる。</p> <p>身近な物をいろいろ持たせて、繰り返し練習させる。</p> <p>“This is ...”を使って生徒を紹介していく。</p> <p>箱の中は生徒に見えるようにしておく。箱の中の物に触り、“Is this ...?”を繰り返し聞かせる。</p> <p>デモンストレーションで活動内容などを示したら、十分な発話練習をして、グループ活動に移る。</p>



		<p>第2時に使うTシャツカードをデザインする。</p> <p>カードは次回の活動で使用することを伝え、生徒に期待感を持たせる。</p>	<p>カードは回収する。</p>
第2時	<p>【コミュニケーションをする機会を設ける】</p> <p>【ステップアップを図る】</p> <p>【ステップアップを図る】</p>	<p>前時の復習をしながら、“Yes, it is.” “No, it isn’t.” を導入する。</p> <p>“Is this ...?” への答え方を知る。</p> <p>“Is this your T-shirt?” と言いながら、Tシャツカードを作った人を探す。＜4＞</p> <p>慣れ親しんだ表現の定着を図る。</p> <p>教師の見本や発音練習を通して、褒める表現の使い方を知る。</p> <p>自然で楽しくコミュニケーションをするための表現や言い方を理解させる。</p> <p>Tシャツカードを用いた活動を再度行い、作った人を見つけたら、Tシャツを褒める。＜2＞</p> <p>慣れ親しんだ表現を用いて、感情のある言葉のやり取りをさせる。</p> <p>第3時に使う帽子カードをデザインする。</p>	<p>繰り返し聞かせたら、十分発話練習をする。</p> <p>生徒には、別の生徒が作ったTシャツカードを渡しておく。</p> <p>強勢、イントネーションに変化を持たせ、気持ちを込めて言わせる。</p> <p>終了後、褒める表現を使うことで、楽しくコミュニケーションできたかを振り返らせる。</p> <p>カードは回収する。</p>
第3時	<p>【「分かった」「できた」「上手になった」と実感させる】</p> <p>【4技能を取り入れた学習活動を積極的に行う】</p>	<p>前時の復習をする。</p> <p>慣れ親しんだ表現の定着を図る。</p> <p>褒める表現を交えて、帽子カードを用いて前時と同じ活動を行う。＜6＞</p> <p>慣れ親しんだ表現を定着させるとともに、前時よりも上手にできた実感させる。</p> <p>グループで、知っている単語や表現を活用し、スキットを作り発表する。＜3、7＞</p> <p>自分たちで英語のスキットが作れるという自信を持たせる。</p> <p>振り返り</p>	<p>つづりや発音が分からない単語は積極的に質問するように促す。</p> <p>英語が上達したかを確認させる。</p>

## 単元終了後の授業者からの報告

中学校第1学年の生徒は、英語を聞くことや話すことに慣れていません。小学校で様々な英語の活動をしながら、学級担任やALTが話す英語を聞いて、その内容を推測しながら理解しようとしたり、慣れ親しんだ英語を使って言いたいことを伝えたりする経験をしてきたためです。小学校では、学級担任が児童の理解の程度や英語を使ってみたいという気持ちなどを把握しながら様々な活動を進めていくので、児童は楽しく英語の活動に取り組みながら英語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいきます。単元計画の作成に当たっては、小学校で慣れ親しんできた単語や表現及び英語の活動を踏まえて指導計画を作成することを意識しました。

第1時では、クイズをする過程で、小学校で慣れ親しんだ単語や表現を思い出させる効果がありました。授業者にとっても、生徒が知っている単語や表現を例として取り上げることができました。また、英語をたくさん聞いたり、実際に使ったりしながら、“This is …” “Is this …?” の使い方を理解していく様子が見られました。第2時と第3時で行ったコミュニケーション活動では、生徒は楽しく英語でやり取りをしていました。スキットの作成と発表は、数人で協力することで最後までできました。下書き原稿の段階で、授業者が原稿を見てつづりや文法などを確認しました。スキット原稿の返却後、自分たちの原稿を繰り返し読む練習をするように指示しました。オリジナリティのある発表をするグループも多く、見ている生徒も楽しむことができました。1年生の最初の時期でも、創作活動に挑戦させることは大切であることを再確認しました。

一方で、単語のつづりを覚えようとしないう生徒や新しいことを覚えることに苦手意識を持っている生徒がいることも分かりました。本単元終了後に、ジェスチャーを交えて単語や文を繰り返し言う活動を行いました。このような生徒の中にも抵抗感なく取り組む生徒がいて、徐々に英語の力を伸ばし、「話すこと」「聞くこと」は一定の水準にまで達しました。

小学校英語活動を踏まえた指導としては、次のことが大切だと考えています。

生徒が英語の音声に慣れ親しんでいることを踏まえ、英語をたくさん聞かせること

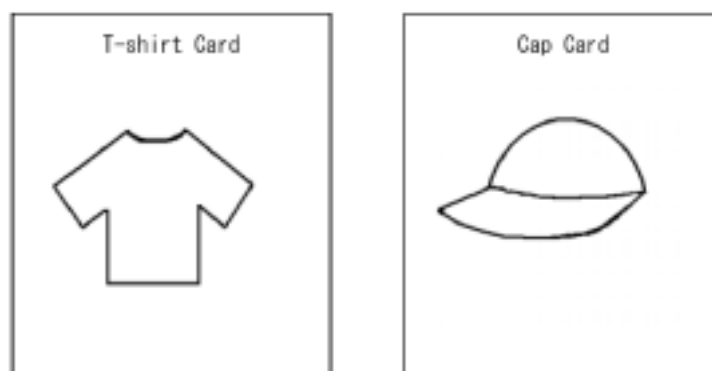
英語をたくさん聞かせながら、英語の音声の特徴や文法ルールに気付かせることで、同じ言語材料を扱っていても小学校のときよりステップアップした学習ができます。

早い時期からコミュニケーション活動やスキット作りなどに取り組ませること

生徒は基本的な表現に慣れ親んでおり、中学校の英語学習に意欲的であることから、早い時期からコミュニケーション活動や創作活動が可能です。

「英語が通じた、読めた、書けた」などの経験を積ませる指導計画を作成すること

英語学習への意欲を維持したり高めたりするためだけでなく、英語が好きではない生徒も入学してきているという点からも必要だと考えます。



## 事例7 単元名「日本大好き」

小学校英語活動を踏まえた入門期指導のポイントは、「単元の展開」に示しました。

授業の概要
<p>本単元では、主に what を用いた疑問文を学習した。授業者は、単元全体を通して、コミュニケーション活動を多く取り入れて授業を展開した。第1時は“What’s this?” や相づち表現を扱い、第2時はSVC(形容詞)を扱った。第3時は favorite、第4時は“What do you ...?”を扱い、これらの表現などを生徒同士のやり取りの中で使わせていた。また、単語や表現の定着を図るために小テストやチャンツを行った。本単元は、教科書 NEW HORIZON English Course 1(東京書籍)の Unit 4 に沿って学習が進められた。</p>
生徒の様子
<p>単元全体を通して、生徒は友達同士でのクイズやインタビュー活動などに意欲的に取り組み、コミュニケーションを円滑にする表現を使って、楽しそうに友達と英語でやり取りをする姿が見られた。また、絵カードや実物を見せながら、新しい英語表現を繰り返し聞かせると、その表現の音や意味を次第に理解していく様子が見られた。また、第2時は、カードを用いて、“S + is + 形容詞”の語順を理解する学習を行ったが、生徒はグループで相談し、教え合いながら、いろいろな英文を作っていた。小テストでは、単語を書く問題や並べ替えの問題を出題した。単語を書く練習は、「単語マラソン世界一周シート」(41 ページ)に記録をさせることで、生徒は意欲的に取り組むことができた。また、授業の最後の5分で目標とする文や、語順を間違えやすい文を含んだチャンツを行ったが、チャンツを行うことで並べ替えの問題の正答率が上がったとの報告が授業者からあった。音声を通して、表現を覚えたためと考えられる。</p>

### 単元の目標

- (1)“What is ...?” 及び “What do you ...?” の形式、意味、使い方と答え方を理解し、表現できる。
- (2)be 動詞の形容詞補語の文の形式、意味、使い方を理解し、表現できる。

### 評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
友達とコミュニケーションを図っている。 < 1 >	easy、difficult などを使って感想を述べることができる。 < 2 >	easy、difficult などを使った感想などを理解できる。 < 5 >	形容詞と“S + is + 形容詞”という文の形を理解している。 < 8 >
	favorite を使って好きなものが言える。 < 3 >	favorite を用いた表現を理解できる。 < 6 >	favorite の意味や使い方を理解している。 < 9 >
	“What do you ...?” を使って質問や応答ができる。 < 4 >	“What do you ...?” を使った質問を理解できる。 < 7 >	“What do you ...?” の語順や使い方を理解している。 < 10 >

単元の展開（４時間）

	入門期指導のポイント	学習活動（ ）とそのねらい（ ） ＜ ＞内の数字は評価規準	指導上の留意点
第 1 時	<p>【生徒が慣れ親しんできた単語や表現を活用する】</p> <p>【コミュニケーションをする機会を設ける】</p> <p>【ステップアップを図る】</p> <p>【文字やつづりの学習をきめ細やかに支援する】</p>	<p>だまし絵クイズをする。</p> <p>“Is this ...?” “Yes.” “No.” を復習しながら、“What’s this?” “It is ...” を導入する。</p> <p>自分で描いた絵の一部を友達に見せて、だまし絵クイズをする。その際、“Give me a hint.” “Close.” “That’s right.” “Really?” “Nice picture.” 等の表現を使う。＜ 1 ＞</p> <p>自然で楽しいコミュニケーションを体験させながら、学習した表現の定着を図る。</p> <p>“Is this ...?” “What’s this?” などの表現を制限時間内に、繰り返し練習ノートに書く。つづりと表現を確認し、短時間で丁寧かつ正確に英文を書かせる。</p> <p>慣れ親しんだ表現を含むチャンツを行う。学習事項の定着を図る。</p> <p>最後のチャンツは毎時間行うので、第 2 時以降は記述を省略。</p>	<p>クイズをしながら疑問文や答え方を繰り返し聞きかせる。</p> <p>ヒントをもらう表現や褒める表現などを言う練習を十分に行ってからだまし絵クイズを始めさせる。</p> <p>たくさん書くことよりも、丁寧かつ正確に書くことに重点を置き、机間指導をしてチェックする。</p>
第 2 時	<p>【生徒が慣れ親しんできた単語や表現を活用する】</p> <p>【英語を聞いて理解させる】</p>	<p>絵カードを見ながら、小学校で慣れ親しんだ形容詞（big、happy など）を復習する。小学校で慣れ親しんだ形容詞を復習する。</p> <p>教科の好き嫌いを聞く質問に答えながら、easy、difficult、interesting などの形容詞を知る。</p> <p>easy、difficult、interesting の音声に慣れ親しませ、その意味などを理解させる。</p> <p>形容詞の説明を聞いて理解する。</p> <p>形容詞の使い方（SVC）を理解させる。</p> <p>グループで、主語カード、be 動詞カード、形容詞カードを使い、意味の通る文を作る。黒板に掲示させ、英語の語順を理解させる。</p>	<p>“S + is + 形容詞”の表現を繰り返し聞きかせる。</p> <p>各教科の教科書を見せて、“Do you like ...?” “Is it easy?” “It is difficult.” などを繰り返し聞きかせる。</p> <p>できるだけたくさんの文を作らせ、全体で読む練習をする。</p>

	<p>【コミュニケーションをする機会を設ける】</p> <p>【文字やつづりの学習をきめ細やかに支援する】</p>	<p>自分にとって簡単なもの、難しいもの、面白いものをグループ内で発表する。＜ 2、5 ＞</p> <p>形容詞とその使い方の定着を図る。</p> <p>発表したことを与えられた時間内に、繰り返し練習ノートに書く。＜ 8 ＞</p> <p>つづりと表現を確認し、短時間で丁寧かつ正確に英文を書かせる。</p>	<p>デモンストレーション後に、単語や表現の発音を十分練習してから活動に入る。</p> <p>つづりが分かるように形容詞カードを黒板に掲示しておく。</p>
<p>第3時</p>	<p>【生徒が慣れ親しんできた単語や表現を活用する】</p> <p>【英語を聞いて理解させる】</p> <p>【コミュニケーションを意識した文法指導をする】</p> <p>【コミュニケーションを意識した文法指導をする】</p> <p>【コミュニケーションをする機会を設ける】</p> <p>【ステップアップを図る】</p>	<p>小テストをする。＜ 8 ＞</p> <p>前時の学習事項を確認する。</p> <p>教科書の内容を聞いて、その内容と好きなものを言う表現を確認する。</p> <p>“Do you like ...?” “I like ...”を復習する。</p> <p>「私が好きなもの」というテーマのQ &amp; Aに答える。</p> <p>“Do you like ...?” “Oh, your favorite fruit /subject is ...” というやり取りの中で、“I like ...” の内容が favorite を使って伝えられることに気付かせる。</p> <p>“My favorite ~ is ...” と “Your favorite ~ is ...” の練習をする。</p> <p>favorite を使った表現と、My/Your の言い換えに慣れさせる。</p> <p>「教科」「食べ物」「歌」「場所」などが書かれた指示カードを見て、ペアで “What’s your favorite subject/food/song/place?” と “My favorite subject/food/song/place is ...” という表現を用いて好きなものを聞いたり言ったりする。その際、“Really? I like it, too.” などの表現を使う。＜ 3、6 ＞</p> <p>自然で楽しいコミュニケーションの中で、“My favorite ~ is ...” の定着を図る。</p>	<p>絵カードを見せながら、教科書の内容を英語で説明する。</p> <p>生徒が答えたことを favorite で言い換えて繰り返し聞かせる。</p> <p>単純なオウム返し練習だけではなく、教師が言った My を Your に言い換えさせる。</p> <p>最初にデモンストレーションで活動内容などを示したら、形態を変えながら十分な発話練習をする。</p>

	【文字やつづりの学習をきめ細やかに支援する】	自分が言ったことを与えられた時間内に、繰り返し練習ノートに書く。＜ 9 ＞ つづりと表現を確認し、短時間で丁寧かつ正確に英文を書かせる。	つづりが分からない単語は質問するように促す。
第4時	<p>【生徒が慣れ親しんできた単語や表現を活用する】</p> <p>【英語を聞いて理解させる】</p> <p>【コミュニケーションを意識した文法指導をする】</p> <p>【コミュニケーションをする機会を設ける】</p> <p>【難しさや不安を軽減する】</p>	<p>小テストをする。＜ 9 ＞ 前時の学習事項を確認する。</p> <p>A L T に、自分が好きな食べ物を伝える。 いろいろな食べ物の単語を復習する。</p> <p>教師とA L T の、“What do you have for breakfast/lunch?” を用いた対話を聞いて、話の内容を推測する。 “What do you have for breakfast/lunch?” という表現と答え方を理解させる。</p> <p>教師とA L T の “What do you have for breakfast/lunch?” という質問に答える。 質問文に慣れて答えられるようにする。</p> <p>グループ内で朝食や昼食の食生活に関する質問をしあう。＜ 4、 7 ＞ “What do you have for breakfast/lunch?” の定着を図る。</p> <p>グループ内の結果を英語で書いて発表する。 結果を発表し、お互いの食事の習慣を知る。 例 In my group, two students have rice for breakfast.</p> <p>質問文と答え方、自分たちのグループの結果をノートに書く。＜ 10 ＞ つづりと表現を確認し、短時間で丁寧かつ正確に英文を書かせる。</p>	<p>事前に食べ物の言い方を復習し、“My favorite food is ...” も使うように促す。</p> <p>生徒の理解の状況を確認しながら、十分聞かせる。</p> <p>最初は単語だけの答えも許容する。その場合、教師が文で言い直して聞かせる。</p> <p>十分な発話練習を行ってからグループ活動に移る。</p> <p>発表で使う表現を提示し、発表内容や英語表現を相談する時間を与え、書いた英文を読む練習をしてから発表させる。</p>

## 単元終了後の授業者からの報告

生徒は、小学校で基本的な表現に慣れ親しみながら、コミュニケーションをすることの楽しさを体験してきました。そこで、小学校で慣れ親しんだ表現とともに、コミュニケーションを円滑にする表現を使わせて、より自然で楽しいコミュニケーションを体験させることを意識しました。単元計画の作成に当たって、そのほかに意識した点は次のことです。

“What’s this?” “What do you ...?” の疑問文は、既に音声に慣れ親しんできているので、中学校では、「疑問詞を用いた疑問文」として提示し、語順や使い方などの文法面を理解させる。小学校で慣れ親しんだ “I like ...” をきっかけに “My favorite ~ is ...” を導入する。

what が使えると、会話の幅が広がるので、生徒のコミュニケーション活動が更に活発になります。また、easy、difficult、interesting などの形容詞を学習することで感想を言えるようになり、伝えられる内容も増えます。さらに、これまでは “I like ...” を使って好きなものを伝えてきましたが、favorite を導入することで、表現の幅も広がります。

生徒は、これらの単語や表現を使い、英語を使って伝えられることが多くなったことを実感しているようでした。また、コミュニケーションを円滑にする表現を使わせることで、楽しく友達同士でコミュニケーションを図る姿が、単元を通して見られました。

小学校英語活動を踏まえた指導としては、次のことが大切だと考えています。

小学校で生徒が慣れ親しんだ単語や表現を活用すること

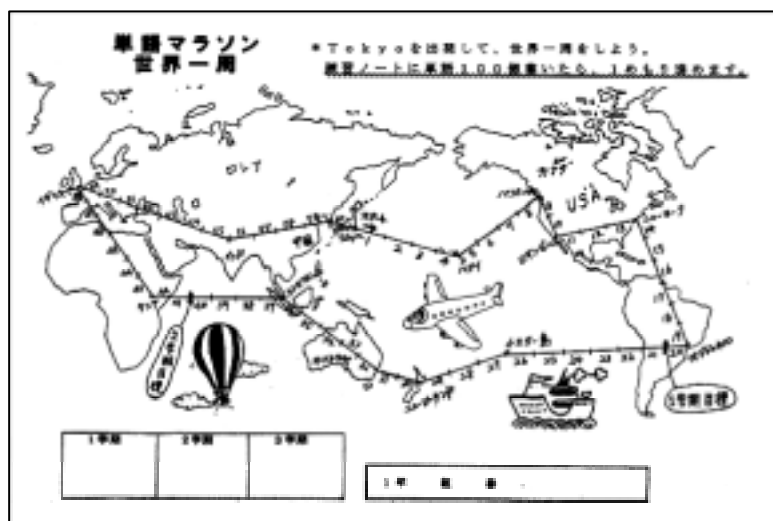
慣れ親しんだ単語や表現を使うことで、生徒の負担を軽減するだけでなく、更に一歩進んだ学習を進めていきます。

小学校英語活動を通して育成された英語の学習に対する意欲を大切にすること

生徒は中学校の英語学習に意欲があるので、4技能を取り入れた様々な活動をします。

コミュニケーション活動をできるだけたくさん取り入れること

生徒は、小学校英語活動を通して、英語でコミュニケーションを図ることの楽しさを体験しています。中学校でも引き続きコミュニケーションの楽しさを体験させながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成していきます。



単語マラソン世界一周シート

## 第6章 小学校英語活動を踏まえた活動案と単元計画案

これまでの調査研究や授業実践を踏まえて、活動案を二つと単元計画案を一つ作成しました。本章では、小学校英語活動を踏まえた入門期の活動や単元を計画する際に、第4章で提示した小学校英語活動を踏まえた入門期指導のポイントをどのようにいかしていくかを確認していきます。

### 1 活動案「自分のペットを紹介しよう」

活動内容は、絵に描いた犬を説明するというものです。中学校入学当初に行う活動として計画しました。本活動のねらいは、使える単語や表現が増えると情報を正しく伝えることができることを実感させることで、単語や表現を覚えることの大切さを体験的に理解させ、学習意欲を高めることです。活動案の作成に当たっては、特に次の5点を意識しました。教科書は使いません。

<b>【4技能を取り入れた学習活動を積極的に行う】</b>
小学校英語活動と同様に、「聞くこと」から「話すこと」の順で活動を進め、その後、英語を読んだり書いたりする経験をさせます。
<b>【生徒が慣れ親しんできた単語や表現を活用する】</b>
“I”を主語にした英語表現に慣れ親しんでくるので、自分が犬になりきって紹介するという方法で、自分が描いた犬を説明させます。
<b>【聞くことを中心に授業を組み立てる】</b>
犬の絵カードを見せながら、活動で使う単語や表現を聞かせることから授業を組み立てます。小学校で慣れ親しんできたと思われる単語を使いますが、生徒によっては初めて学習する単語があるかもしれないので、何度も繰り返しながら十分に聞かせます。
<b>【難しさや不安を軽減する】</b>
扱う単語や表現を繰り返し聞かせることから始めて、練習形態を変えながら発音や発話の練習を十分行うことで、自信を持って英語を話せるようにします。
<b>【文字やつづりの学習をきめ細やかに支援する】</b>
読むことは、繰り返し聞いたり使ったりした後で、単語のつづりを見せて音を推測させます。書くことは、モデル文を見ながら書けるようにします。

活動名 「自分のペットを紹介しよう」(1時間)

準備するもの

犬の絵カード(からだの大きさ、色、鼻の大きさや耳の長さなどが違うもの) ワークシート(犬の絵を描いたりその絵の説明を書いたりするスペースがあるもの。モデル文を載せておく。)

掲示用単語カード

言語材料

I am [big, small] / [black, white, brown, black and white]

I have [ a (big, small) nose] / [a (long, short) tail] / [(big, small) eyes] / [(long, short) ears].



活動の展開（1時間）

入門期指導のポイント	学習活動（ ）とそのねらい（ ）	指導上の留意点
<p>【聞くことを中心に授業を組み立てる】</p> <p>【生徒が慣れ親しんできた単語や表現を活用する】</p> <p>【聞くことを中心に授業を組み立てる】</p> <p>【難しさや不安を軽減する】</p> <p>【コミュニケーションをする機会を設ける】</p> <p>【聞くことを中心に授業を組み立てる】</p>	<p>「自分が描いた犬の絵を英語で説明する」という活動の目標を知る。 学習活動の見通しを持たせる。</p> <p>英語を聞きながら、どの犬のことを言っているかを当てる。 十分に単語を聞かせて、後で行う「単語カードに書かれたつづりを見て読む」活動へ移りやすくする。</p> <p>犬の様子を表す単語を覚える。 扱う単語や表現の発音を確認する。</p> <p>教師が英語で説明する犬を描く。 英語を聞いて理解しているかを確認する。</p> <p>ワークシートに犬の絵を描き、その絵の説明の仕方を練習する。 説明のときに使う英語表現を言えるようにする。</p> <p>別のペアを作り、犬になりきって自分が描いた犬を説明する。説明を聞いている生徒は、聞いた情報を基に犬の絵を描く。終わったら、絵を見せ合う。 自分が描いた絵と相手が描いた絵の違いに気付かせる。</p>	<p>指導上の留意点</p> <p>いろいろな犬の絵を見せて、次の表現を繰り返し聞かせる。 I am [big, small] / [black, white, brown, black and white].</p> <p>黒板に掲示した犬の絵を指さしながら、単語の発音練習をする。単語カードも掲示する。</p> <p>犬の絵を描き終わったら、次の手順で発話練習をする。 一斉練習：教師の言う英語を繰り返させる。次に、自分の犬の絵を説明するために必要な部分は変えて繰り返させる。 ペア練習：ペアになって相手に自分の犬を説明する練習をさせる。 説明できたかを確認し、自信がない生徒がいるようなら再度の練習をする。</p> <p>タイミングを見計らって、説明する人と絵を描く人を交代するように指示する。</p>

<p>【生徒が慣れ親しんできた単語や表現を活用する】</p>	<p>犬を説明するために新たに加わった単語や表現を練習する。 情報をより正確に伝えるために必要な単語や表現を覚えさせる。</p> <p>別のペアを作って、自分が描いた犬の絵を説明し合い、終わったら絵を見せ合って、1回目に描いた絵よりも似ているかどうかを確認する。 使える単語や表現が増えると、言葉を通じて表現できることが増えて、お互いに共有できる情報が増えることに気付かせる。</p>	<p>次の表現を繰り返し聞かせたら、前と同じ の手順で発話練習をする。単語カードも掲示する。 I have [ a (big, small) nose] / [a (long, short) tail] / [(big, small) eyes] / [(long, short) ears].</p> <p>1回目に描いた絵よりも似ているところが多い理由を考えさせる。</p>
<p>【文字やつづりの学習をきめ細やかに支援する】</p>	<p>黒板に掲示してある単語カードに書かれたつづりを見て読む。 つづりを見て単語を読む経験をさせる。</p>	<p>つづりから音を推測しやすい big, long などの単語から見せる。</p>
<p>【4技能を取り入れた学習活動を積極的にを行う】</p>	<p>ワークシートに自分が描いた犬の絵の説明を英語で書いてみる。 英語を書く経験をさせる。</p>	<p>モデル文を見ながら、丁寧に書くように指導する。</p>

ワークシート「自分のペットを紹介しよう」

1. 犬の絵を書こう。  
 友達や隣に犬の絵を描こう。       自分の犬の絵を描こう。

2. 犬が何色か書いた犬の絵を描こう。  
 2匹       2匹

3. 次の英文を参考に、自分が描いた犬の絵を書いてみよう。

<p><b>I am big.</b></p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>	<p><b>I am white.</b></p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
<p><b>I have big eyes.</b></p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>	<p><b>I have a small nose.</b></p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
<p><b>I have long ears.</b></p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>	<p><b>I have a long tail.</b></p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

上野 実 先生

## 2 活動案「私のかばんは机の上にあります」

活動内容は、かばんカードが置いてある場所を伝えるというものです。中学校入学後の早い時期に行う活動として計画しました。この活動は、前半で色を題材とした活動を行い、生徒に小学校で学習した単語や表現を思い出させます。後半の活動では、これからの中学校の学習事項を意識して前置詞を扱います。本活動のねらいは、場所を表す前置詞の学習を通して、英語の語順など文構造の勉強についてイメージを持たせ、中学校の英語はどのようなことを学習するかを理解させることです。活動案の作成に当たっては、特に次の3点を意識しました。教科書は使いません。

<b>【英語を聞いて理解させる】</b>
生徒が慣れ親しんできた単語や表現を使いながら、活動のやり方をデモンストレーションで示し、かばんカードをいろいろな場所に置きながら前置詞の表現を繰り返し聞かせて場所を表す言い方を理解させます。
<b>【コミュニケーションを意識した文法指導をする】</b>
ペアになって、お互いのかばんカードが置かれている場所を言うやり取りを繰り返し行いながら、前置詞の使い方を理解させます。
<b>【ステップアップを図る】</b>
強勢の位置が変わることで、伝える意味が変わることを理解させることで、英語の音声への理解を更に深めます。

本活動案で前置詞を扱った理由は次のとおりです。

理由1 場所・空間を表す前置詞は視覚的に確認できるので、視聴覚教材や実物を使いながら英語を聞かせることで、意味を理解しやすい。

理由2 前置詞は音とつづりが一致するものが多いことから、生徒に英語を読ませたり書かせたりするときに音とつづりの関係を理解しやすく、「読むこと」「書くこと」への負担感が和らぐことが期待できる。

理由3 前置詞は中学生にとって難しい学習事項の一つであるが、第1学年の初期に導入することで、小学校英語活動で学習した表現と同様に、まとまった表現として学習することが期待できる。また、早い時期から導入して慣れ親しませておくことで、教科書で前置詞を扱うときには生徒が難しさをあまり感じないことや、場所・空間以外の意味を学習したときにその前置詞の核となるイメージの学習がしやすくなることなども期待できる。

活動名 「私のカバンは机の上にあります」(1時間)

準備するもの

色画用紙 かばんカード(掲示用と生徒用) 色鉛筆(生徒持参)

言語材料

blue brown black white red pink yellow など

on under by in ; My bag is on the desk.

活動の展開（1時間）

入門期指導のポイント	学習活動（ ）とそのねらい（ ）	指導上の留意点
【生徒が慣れ親しんできた単語や表現を把握する】	<p>英語で色の名前を言う。 色の名前を思い出させるとともに、生徒の英語への慣れ親しみの程度を確認する。</p> <p>リズムに乗って色の名前を練習する。 生徒が大きな声で英語を言うかを確認する。</p>	<p>黒板に色画用紙を掲示し、“What is this color?” “How do you say this color?” などと質問しながら、生徒が分かる単語や表現を確認する。英語での答えは強要しない。</p> <p>色画用紙を指さしながら、リズムに乗って発音練習をする。</p>
【英語を聞いて理解させる】	<p>かばんカードを3枚受け取り、それぞれに色を塗る。 デモンストレーションを行い、かばんカードに色を塗ることを理解させる。</p>	<p>デモンストレーションを行い、実際に色を塗って見せる。 “I have three bags. This is my blue bag. This is my pink bag. And this is my red bag.”</p>
【英語を聞いて理解させる】	<p>かばんカードが置かれている場所を英語で聞く。 前置詞の音と意味を理解させる。</p>	<p>生徒にもかばんカードをいろいろな場所に置かせ、英語を繰り返し聞かせる。 “My blue bag is on the desk. My pink bag is in the desk. Oh, your yellow bag is under the chair”</p>
【コミュニケーションをする機会を設ける】	<p>かばんカードの場所を聞くクイズに答える。 前置詞の意味を理解したか確認する。</p>	<p>まだ英語での答を強要しない。 教師：Where is my blue bag? 生徒：机の上 / Desk. / Desk, on. / On the desk.</p>
【難しさや不安を軽減する】	<p>かばんカードをいろいろな場所に置いて、前置詞の使い方を練習する。 前置詞の音、意味、使い方を理解させる。</p>	<p>かばんカードをいろいろな場所に置かせ、次の手順で練習する。 意味のまとまりを意識して、英語を繰り返す。 “On the desk. My/Your bag is on the desk. My/Your pink bag is on the desk.”</p>

<p>【コミュニケーションを意識した文法指導をする】</p>	<p>ペアになって、一人が3枚のかばんカードを別々の場所に置き、もう一人がそれぞれのかばんカードの場所を英語で言う。 My を Your に言い換えることで、意味のやり取りを伴った練習をさせる。</p>	<p>教員が置いたかばんカードがどこにあるかを一齐に言う。 ペアで、自分のかばんカードがどこにあるかを言う。 “Look. My bag is in the desk.”</p> <p>次のような表現を十分に聞かせて My/Your の言い換え練習を十分にしてからペア活動を行う。 “Your bag is on the desk.” “Yes. My bag is on the desk.”</p>
<p>【コミュニケーションを意識した文法指導をする】 【ステップアップを図る】</p>	<p>ペアになって、お互いのかばんカードを別々の場所に置き、二つのかばんカードがある場所を英語で言う。 強勢の位置が変わることで伝えたい意味が変わることに気付かせる。</p>	<p>最初に、デモンストレーションを行い、強勢の位置に気付かせる。 “MY bag is in the desk. YOUR bag is under the desk.” “My bag is ON the desk. Your bag is UNDER the desk.”</p> <p>大文字の単語は強勢を置く部分</p>
<p>【文字やつづりの学習をきめ細やかに支援する】</p>	<p>板書されている英文の空欄に適切な前置詞を入れる。 教師が話す英文を聞いて、空欄に入る語を当てる。 教師が話す英文を聞いて、前置詞のつづりを推測する。 音とつづりの関係を理解させる。</p>	<p>黒板に前置詞の部分を空欄にした英文を書いておく。</p> <p>音とつづりが一致する in、on から聞かせる。次に by、under の順で聞かせ、音とつづりが一致しない単語があることに気付かせる。</p>
<p>【中学校の英語学習の内容をイメージさせる】</p>	<p>場所を表す前置詞の説明を聞く。 中学校ではどのようなことを学習するかを理解させる。</p> <p>板書されている英文を大きな声で読む。 学習した内容を振り返らせ、つづりを見て読めるかどうかを確認させる。</p>	<p>文法説明は簡潔に行う。</p> <p>十分にコーラスリーディングをしたら、バズリーディングをさせて英文が自分で読めるかどうかを確認させる。</p>

### 3 単元計画案「グリーン先生の初授業」

単元計画案とその具体的な指導例を作成しました。教科書の本文を三つのパートに分け、各パートは2時間扱いとしました。各パートの第1時はテキストの内容を扱い、第2時は学習内容を活用する場面を設けています。単元計画案を作成するに当たっては、特に次の5点を意識しました。教科書 NEW HORIZON English Course 1 (東京書籍) の Unit 3 に沿って学習を進めます。

<b>【生徒が慣れ親しんできた単語や表現を活用する】</b>
自己紹介やインタビュー活動をすることで、小学校で慣れ親しんできた単語や表現を活用する機会を持たせ、定着を図ります。インタビュー活動の前に、教師がQ & Aを行いながら、生徒が自己紹介で使った単語や表現を確認します。このように生徒全体で単語や表現を共有してから、インタビュー活動で話す内容を考えさせることで、内容の豊かなコミュニケーションをさせます。
<b>【「分かった」「できた」「上手になった」と実感させる】</b>
視聴覚教材等の活用、適切な場面設定を念頭に、生徒に英語をたくさん聞かせて英語表現の意味や使い方を理解させます。文字で表現を確認したり、実際に使わせることで理解を深め、最後にノートに学習事項を書いて確認します。インタビュー活動は2回行い、2回目には「1回目のインタビューより上手に英語を話すことができた」という実感を持たせます。
<b>【ステップアップを図る】</b>
インタビュー活動の中で、相づち表現を使うように指導します。また、相手の言ったことを繰り返し、その後で自分のことについて1文を加える指導をします。そうすることで、小学校英語活動で経験した英語のやり取りよりも自然で高度なコミュニケーションを体験させるとともに、相づちや1文を加えることが、会話を継続させるために役立つことを体験的に理解させます。
<b>【飽きない工夫をする】</b>
インタビュー活動を繰り返し行いますが、やり取りの内容や言語材料などを少しずつ変えることで飽きないようにします。
<b>【コミュニケーションを意識した文法指導をする】</b>
一般動詞の肯定文、疑問文、否定文は、最初に教師と生徒のやり取りの中でたくさん聞かせることから始めます。その後、ペアで口頭練習を十分に行って理解を促してから、インタビュー活動の中で実際に活用させて定着を図ります。自己紹介を先に行うことで、インタビュー活動のときには、既に生徒は話す内容を持っているようにします。

50 ページの「単元の展開」で提示した学習活動の具体的な指導については、51～54 ページの「主な場面での指導例」に示しました。小学校英語活動を踏まえた入門期指導のポイントを、どのようにいかしているかを確認してください。



単元名 「グリーン先生の初授業」

単元設定の理由

一般動詞のいろいろな文を学習することにより、表現できる内容が格段に増えます。“I like ...” “I have ...” “Do you like ...?” “Do you have ...?” などの表現は、音声を中心に小学校英語活動を通じて慣れ親しんでいることが期待されます。そこで、これらの表現を使う場面を設けて生徒に活用させながら、肯定文、疑問文、否定文の語順などを理解させます。

疑問文を使ってインタビュー活動を行うことで、生徒間のコミュニケーションを活発にすることができます。また、新しい動詞や相づちなどの表現を導入し、更に自然で楽しいコミュニケーションにします。インタビュー活動は、2回行うことで英語が上達したことを実感させます。

単元の目標

- (1)自分が関心を持っている事柄に関する情報を含めた、簡単な自己紹介ができる。
- (2)趣味や学校生活などについて、簡単なインタビューをしたり、それに答えたりすることができる。
- (3)一般動詞の肯定文、疑問文、否定文の形式、意味、使い方を理解する。

言語材料

I like ... I have ... I play ... Do you ...? Yes, I do. No, I don't. I don't ...  
 skiing music play walk drive want speak but など  
 come to school every day by bike

評価基準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
学習した表現を使って英語を書いている。 < 1 >	一般動詞の肯定文、疑問文、否定文を使って表現できる。 < 3 >	一般動詞の肯定文、疑問文、否定文を聞いたり読んだりしてその意味を理解できる。 < 5 >	一般動詞の肯定文、疑問文、否定文の形式、意味、使い方を理解している。 < 6 >
友達とコミュニケーションを図っている。 < 2 >	趣味や学校生活、欲しいものについて、簡単な自己紹介やインタビューをすることができる。 < 4 >		

単元の展開〔概略〕(6時間)

	学習活動	各学習活動のねらい
第1時	(1)一般動詞の肯定文の語順、使い方などを理解する。 (2)一般動詞の肯定文を言う練習をする。 (3)本文の内容を理解する。〈5〉 (4)単語の発音、意味、つづりを確認する。 (5)本文を音読する。 (6)学習した事項をノートに書く。	一般動詞の肯定文の語順などを理解させる。 一般動詞の肯定文の理解を促す。 本文の内容を理解させる。 発音、意味、つづりを確認する。 音とつづりを一致させる。 学習事項を振り返らせる。
第2時	(1)第1時の学習事項を復習する。 (2)自己紹介文を作る。〈1〉 (3)自己紹介の練習をする。 (4)自己紹介をする。(グループワーク)	一般動詞の肯定文の定着を図る。 話す内容を持たせる。 英語を話す自信を持たせる。 英語で自己紹介できたという達成感を持たせる。
第3時	(1)一般動詞の疑問文の語順、使い方及び応答の仕方などを理解する。 (2)一般動詞の疑問文を言う練習をする。 (以下、第1時と同じ展開で疑問文を学習する。)	一般動詞の疑問文の語順などを理解させる。 一般動詞の疑問文の理解を促す。
第4時	(1)第3時の学習事項を復習する。 (2)インタビュー活動の内容を理解する。 (3)ワークシートに自分のことを記入する。〈3〉 (4)インタビュー活動で使用する表現を口頭練習する。 (5)インタビュー活動を行う。〈2〉	一般動詞の疑問文の定着を図る。 活動の内容を理解させる。 使う単語や話す内容を決めさせる。 英語を話す自信を持たせる。 英語でコミュニケーションできたという達成感を持たせる。
第5時	(1)一般動詞の否定文の語順、使い方などを理解する。 (2)一般動詞の否定文を言う練習をする。 (以下、第1時と同じ展開で否定文を学習する。)	一般動詞の否定文の語順などを理解させる。 一般動詞の否定文の理解を促す。
第6時	(1)一般動詞の肯定文、疑問文、否定文を復習する。 (2)インタビュー活動の内容を理解する。 (3)第4時でワークシートに書いたことを確認し、それ以外に自分のことを1文加える。 (4)インタビュー活動で使用する表現を口頭練習する。 (5)インタビュー活動を行う。〈4〉 (6)第4時のインタビュー活動と比べて、上手に英語でやり取りができたかを自己評価する。 (7)単元の学習事項を復習する。〈6〉	一般動詞の肯定文、疑問文、否定文の定着を図る。 活動の内容を理解させる。 話す内容を持たせる。 英語を話す自信を持たせる。 英語でコミュニケーションできたという達成感を持たせる。 上達したことを実感させる。 学習事項の定着を図る。



主な場面での指導例

**指導例 1** 一般動詞の肯定文、疑問文、否定文を理解させる〔第1時、第3時、第5時の(1)〕

【生徒が慣れ親しんできた単語や表現を活用する】【コミュニケーションを意識した文法指導をする】

	学習活動	指導例
第1時	(1)一般動詞の肯定文の語順、使い方などを理解する。	<p>写真などを見せて、教師が自己紹介をする。“I like …” “I have …” を最初に使い、次に “I play …” “I want …” を使う。</p> <p>別の人の写真を見せて、その人の紹介をする。三単現のsを学習していないので、その人になりきって “I” を主語にして紹介する。</p> <p>生徒に “Do you like …?” “Do you have …?” “Do you play …?” などの質問をする。生徒の答えは、“You like …” などと言い直す。</p> <p>英文を板書して、英語の語順を確認する。</p> <p>ペアで口頭練習を行わせたら、単語を並べ替えて文を作らせたり、知っている単語を使って英語を言わせたりして、(2)の活動に移る。</p>
第3時	(1)一般動詞の疑問文の語順、使い方及び応答の仕方などを理解する。	<p>“Do you …?” という表現を中心に、生徒に質問をする。</p> <p>生徒に繰り返し “Do you …?” の形を聞かせたら、生徒から教師に質問をさせ、応答の仕方を繰り返し聞かせる。</p> <p>(以降は、第1時の と同じ)</p>
第5時	(1)一般動詞の否定文の語順、使い方などを理解する。	<p>教師は、自分がしないことを “I don’t …” を使って繰り返し聞かせる。その後、第1時の の要領で、否定文を更に聞かせる。</p> <p>生徒に “Do you like …?” “Do you have …?” “Do you play …?” などの質問をする。生徒の答えは、“You don’t like …” などと言い直す。</p> <p>(以降は、第1時の と同じ)</p>

**指導例 2** 一般動詞の肯定文、疑問文、否定文を言う練習をする〔第1時、第3時、第5時の(2)〕

【難しさや不安を軽減する】【コミュニケーションを意識した文法指導をする】

	学習活動	指導例
第1時	(2)一般動詞の肯定文を言う練習をする。	<p>全員で基本文を繰り返す。</p> <p>例えば、色や果物などのジャンルを決めて、教師が “I like/have/ play … How about you?” (事前に “How about you?” を教えておく。) と質問して、一斉に各自の好きなものなどを言わせる。</p> <p>ペアになって、“I like apples. How about you?” “I like oranges.” というやり取りを、動詞などを変えさせながら行わせる。</p>
第3時	(2)一般動詞の疑問文を言う練習をする。	<p>絵カードを見せて、その内容について教師に対し一斉に “Do you …?” と質問させる。</p> <p>絵カードを見せて、その内容についてペアで質問と応答をさせる。</p>
第5時	(2)一般動詞の否定文を言う練習をする。	<p>動物やものが描かれたシートを渡し、それぞれの絵を見ながら “I don’t …” と言わせる。</p> <p>ペアで、“I don’t … How about you?” のやり取りを行わせる。</p>

**指導例 3** 本文の内容を理解させる〔第1時の(3)〕

【英語をたくさん聞かせる】【英語を聞いて理解させる】

	学習活動	指導例
第1時	(3)本文の内容を理解する。	絵カードなどを活用しながら、本文の内容を聞かせて理解させる。その際、一般動詞を用いた肯定文をたくさん聞かせるようにする。生徒が内容を理解しているか確認するためにクイズを行う。

**指導例 4** 単語の発音、意味、つづりを確認する〔第1時の(4)〕

【文字やつづりの学習をきめ細やかに支援する】

	学習活動	指導例
第1時	(4)単語の発音、意味、つづりを確認する。	本文の内容理解の際に繰り返し聞かせた単語の中から、つづりを見て発音が推測しやすい単語(例 hello, skiing, from, Canada, music, piano など)をフラッシュカードで見せて、発音を推測させてから意味を確認する。その後、発音しながら指でつづりを書かせる。 本文の内容理解の際に繰り返し聞かせた単語の中から、つづりを見て発音が推測しにくそうな単語(例 everyone, like, play, the, guitar, too など)をフラッシュカードで見せて、発音を推測させてから意味を確認する。その後、発音しながら指でつづりを書かせる。

**指導例 5** 本文を音読する〔第1時の(5)〕

【英語の学習意欲を高める】【難しさや不安を軽減する】【飽きない工夫をする】【中学校の英語の学習方法を身に付けさせる】

	学習活動	指導例
第1時	(5)本文を音読する。	モデルリーディング、コーラスリーディングを行ってから、暗唱して発表するという目標を提示する。 黙読をさせて、発音が分からない単語を確認させる。発音が分からない単語は全員で発音練習をする。 強勢の位置を変えて読んで聞かせ、意味がどう変わるかを考えさせる。その後、強勢の位置を意識させながらコーラスリーディングを行う。 バズリーディングをする。全員立たせて、教科書を手に持って2回読んだら座るように指示をする。机間指導を行い、スムーズに読めない生徒に支援をする。 ペアでのシャドーイング、リピーティングを交えながら、暗唱できるまでペアで音読をさせる。 グループになって役割を変えながら暗唱した英語を言う。 教科書を閉じさせたら、教師が本文を読み、英語が聞き取れたかどうかを確認する。そして、音読練習は有効な英語の学習方法であることを生徒に伝え、家庭学習として奨励する。

指導例 6 自己紹介をする〔第2時の(2)～(4)〕

【ステップアップを図る】【飽きない工夫をする】【コミュニケーションをする機会を設ける】

	学習活動	指導例
第2時	(2)自己紹介文を作る。 (3)自己紹介の練習をする。 (4)自己紹介をする。(グループワーク)	<p>“Do you ...?” を使ったQ &amp; Aで第1時の学習内容を復習しながら、生徒が言った単語を全体で確認する。</p> <p>小学校のときと違う情報のやり取りをさせるために、中学校の生活に関する内容も加えて自己紹介文を書かせる。</p> <p>グループで自己紹介をするという目標を与えて、音読練習をさせる。単語の発音が分からない場合は、積極的に質問をするように促す。十分に音読練習をしたら、リードアンドルックアップをさせる。</p> <p>ペアを作り、リードアンドルックアップの要領で相手を見て練習させる。その際、伝えたいことを考えさせ、強勢の位置を意識させる。</p> <p>別のペアを作り の練習を再度行う。その際、聞いている生徒に“Really?” や “Me, too.” などの表現を使わせる。</p> <p>グループで自己紹介をさせる。話す生徒はできるだけ友達を見ながら話すように促す。聞いている生徒は、“Really?” や “Me, too.” などの表現を使うように促す。</p>

指導例 7 インタビュー活動をする〔第4時の(2)～(5)〕

【コミュニケーションをする機会を設ける】【コミュニケーションを意識した文法指導をする】

	学習活動	指導例
第4時	(2)インタビュー活動の内容を理解する。 (3)ワークシートに自分のことを記入する。 (4)インタビュー活動で使用する表現を口頭練習する。 (5)インタビュー活動を行う。	<p>絵カードを見せ、“Do you ...?” を使った質問を教師に向かってさせながら、第3時の学習内容を復習する。その後、インタビュー活動のデモンストレーションを行い、使う英語表現を繰り返し聞かせながら、答えるときは、Yes/No の答えに一言加えること、質問者は相手の答えを繰り返しながらワークシートに Yes/No のチェックを付けることを理解させる。</p> <p>目標とするやり取りの例</p> <p>生徒1 : Do you like soccer? 生徒2 : Yes, I do. I like soccer. / No, I don't. I like baseball.</p> <p>生徒1 : (チェックしながら) OK. You like soccer. / You like baseball. Thank you.</p> <p>第2時で作った自己紹介文を参考にしながら、インタビュー用のワークシートに質問と自分の答えを記入させる。</p> <p>“I like soccer.” “You like soccer.” のやり取りができるように代名詞を言い換える練習を行う。慣れてきたら、強勢の位置も意識させる。</p> <p>制限時間を設けて、できるだけたくさんの人にインタビューをするように指示をしてから、活動を始める。</p>

指導例 8 再度インタビュー活動をする〔第 6 時(2)～(6)〕

【コミュニケーションをする機会を設ける】「分かった」「できた」「上手になった」と実感させる】

	学習活動	指導例
第 6 時	<p>(2)インタビュー活動の内容を理解する。</p> <p>(3)第 4 時でワークシートに書いたことを確認し、それ以外に自分のことを 1 文加える。</p> <p>(4)インタビュー活動で使用する表現を口頭練習する。</p> <p>(5)インタビュー活動を行う。</p> <p>(6)第 4 時のインタビュー活動と比べて、上手に英語でやり取りができたかを自己評価する。</p>	<p>第 5 時の学習内容を復習したら、インタビュー活動のデモンストラーションを行う。</p> <p>第 4 時と同様に、答えるときは、Yes/No の答えに一言加える。質問者は相手の答えを繰り返しながらワークシートに Yes/No のチェックを付ける</p> <p>生徒 1 : Do you play the guitar? 生徒 2 : No, I don't. I play the piano. 生徒 1 : (チェックしながら) OK. You play the piano.</p> <p>ワークシートに加えた 1 文を最初に言ってから、相手はどうかを質問する。答えるときは、相手が言ったことを繰り返す。</p> <p>生徒 1 : I want a new video game. How about you? 生徒 2 : Me, too. I want a new video game.</p> <p>生徒を半分に分け、半分の生徒に教師が言った質問を、もう半分の生徒に教師が言った答えを繰り返させる。強勢の位置も意識させる。</p> <p>生徒を半分に分け、半分の生徒に教師が言った質問を繰り返させ、もう半分の生徒には各自の答えを言わせる。</p> <p>生徒から教師に質問をさせ、教師が答える。教師が言った答えを生徒に繰り返させたら、各自の答えを付け加えさせる。</p> <p>ペアで練習をさせる。</p> <p>制限時間を設けて、第 4 時でインタビューした友達以外の人にインタビューをするように指示をしてから、活動を始める。</p>

### まとめ

小学校英語活動の導入に伴い、中学校の英語教育の位置付けが変わります。これからは、小学校英語活動の上に中学校の英語学習を積み重ねていくこととなります。そのため、これまでの指導に、小学校英語活動を踏まえた視点を取り入れて、指導計画や指導方法を修正していく必要があります。

神奈川県教育委員会(2009b)の調査によると、英語は、生徒にとって難しい教科の一つと考えられます。小学校で既に英語が好きではなくなった生徒もいます。しかし、今回の調査研究から、小学校では英語の授業が好きではなかった生徒でも、中学校に入学してから英語が好きになる可能性が十分にあることが分かりました。英語が好きな生徒は更に英語が好きになるように、英語が好きではなかった生徒は少しでも英語が好きになるように指導をしていくことが大切です。また、第 1 学年の生徒の多くが英語を使えるようになりたいという思いを持っていると考えられ、英語をいきた言葉として学習させる良い機会です。生徒の 4 技能をバランスよく育成するために、これまでの自分の実践を基に、小学校英語活動を経験した生徒たちの英語学習に対する意欲や態度などをいかしたより良い授業を目指してください。

参考資料 英語ノート1、2の主な題材と言語材料

小学校に配付された英語ノート1、2の主な題材と言語材料などをまとめました。小学校英語活動が単語や表現を定着させることを目的としていないことや、英語ノートは教科書ではないため、その扱いが小学校によって異なることなどを踏まえた上で参考にしてください。

英語ノート1

	単元	主な題材	その他の題材	場面	主な言語材料	
英語 ノート 1	1	世界の「こんにちは」を知ろう	様々な言語でのあいさつ	いろいろな国 様々な国のあいさつのジェスチャー	自分の名前を相手に伝えるなどの初対面のあいさつをする。	Hello. Hi. What's your name? My name is Ken. Nice to meet you. Nice to meet you, too. など
	2	ジェスチャーをしよう	相手に自分の思いを伝えるためのジェスチャー	いろいろな気持ち	日常生活の中のあいさつ	How are you? I'm fine. And you? I'm happy. happy, sleepy, hungry など
	3	数で遊ぼう	数を使った様々な遊び	いろいろな国の数え方	数を使った様々な遊びの中で、いくつあるかななどの事実を描写する。	How many? Rock, scissors, paper. number, one ~ twenty など
	4	自己紹介をしよう	自分の好きなものを含めて自己紹介をする。	好きな食べ物 好きな動物 好きなスポーツ	自己紹介をする。好みを伝える。好みを尋ねる。	Do you like apples? Yes, I do. No, I don't. I like bananas. Thank you.  apple, banana, pineapple, strawberry, bird, cat, dog, rabbit, fish, ice cream, juice, milk, baseball, skiing, soccer, swimming など
	5	いろいろな衣装を知ろう	好き嫌いを伝える。	色 服等の身に付けるもの 買物	買物	I don't like blue. Do you have yellow shoes? Yes, I do. No, I don't. Here you are.  red, blue, yellow, orange, pink, green, black, white, T-shirt, sweater, pants, skirt, socks, shoes, shorts, cap など
	6	外来語を知ろう	身の回りにある外来語	食べ物 スポーツ 動物 身の回りの品物 レストラン 料理	好きな食べ物を注文する。	What do you want? Melon, please.  kiwi, peach, cherry, grape, lemon, tomato, cabbage, pizza, salad, soup, cake, donut, basketball, glove, gorilla, koala, TV, calendar など
	7	クイズ大会をしよう	クイズ大会	文房具 海の生き物 いろいろな生き物	事実を尋ねる。	What's this? It's a pencil.  book, pencil case, ruler, eraser, glue, butterfly, starfish, lobster, jellyfish, octopus, yacht など
	8	時間割を作ろう	時間割を紹介する。	教科名 曜日 いろいろな国	学校生活・教科	I study Japanese.  Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday, arts and crafts, English, home economics, Japanese, music, P.E., science, social studies など
	9	ランチメニューを作ろう	世界の料理	食べ物 レストラン	料理を丁寧な言い方で注文する。	What would you like? I'd like juice. Where am I from?  fruit, sandwich, miso soup, bread, rice, sausage, fried egg, fish, juice, tea, yogurt, curry and rice, hotdog など

英語ノート1及び英語ノートの指導資料を基に作成

英語ノート2

	単元	主な題材	その他の題材	場面	主な言語材料	
英語 ノ ー ト 2	1	アルファベットで遊ぼう	外国人の名前や身近な英語	大文字 身近なアルファベット	賞賛の声をかける。	What's this? It's a ~. That's right. ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ など
	2	いろいろな文字があることを知ろう	身の回りにある英語	小文字 世界の様々な文字 21から100までの数 町にある建物	賞賛の声をかける。	What's this? abcdefghijklmnopqrstuvwxyz thirty, forty, fifty, sixty, seventy, eighty, ninety, one hundred など
	3	友だちの誕生日を知ろう	誕生日	月名 家族 1～31までの序数 月の行事 いろいろな国の季節 の行事	インタビュー	When is your birthday? My birthday is April 25.  January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November, December, first ~ thirty-first など
	4	できることを紹介しよう	「できる」「できない」を使った自己紹介	動物 自分ができること 楽器 スポーツ	家庭での生活、学校での学習や活動	Can you play soccer? Yes, I can. No, I can't. I can play soccer. I can't play soccer. What can you do?  table tennis, piano, make, sing, ride など
	5	道案内をしよう	オリジナル・タウンでの道案内	町の中の建物や施設	方向を示す英語を使った道案内	Where is the station? Go straight. Turn right. And stop. Let's go to the police box.  park, book store, school, department store, flower shop, police box, bank, restaurant, hospital など
	6	行ってみたい国を紹介しよう	世界で話されている英語	様々な国とその特色 色 形 したいこと	自分が行きたい国について発表する。	I want to go to Italy. I want to see pyramids and sphinx. Let's go.  Japan, China, Korea, camel, desert, circle, diamond, history, baseball, beach, koala, tower, kangaroo, mountain など
	7	自分の一日を紹介しよう	自分の1日の生活	時間 時差 1から60までの数字	自分の1日の生活を紹介する。	What time do you get up? I get up at 8:00. I go to school at 8:00. Good night  go to bed, take a bath, lunch, dinner, at home, one ~ sixty, clean, watch など
	8	オリジナルの劇を作ろう	世界の物語	動物やその鳴き声	オリジナルの劇を作り、演じる。	Please help me. What's the matter? Look at this. Are you ready?  grandpa, grandma, girl, turnip, pull, come, me, mouse など
	9	将来の夢を紹介しよう	将来の夢	職業 好きなもの(つきたい職業の理由として)	理由を含めて将来の夢についてスピーチを行う。	What do you want to be? I want to be a soccer player.  teacher, doctor, tennis player, fire fighter, nurse, astronaut, farmer, police officer, pilot, scientist, engineer など

英語ノート2及び英語ノートの指導資料を基に作成

「英語についてのアンケート調査用紙」を作成しました。本研究で使用したアンケート調査用紙を簡便にしたものです。中学校入学直後に、英語学習への生徒の意欲などを知るためにご活用ください。

## 英語についてのアンケート調査用紙

このアンケート調査は、あなたの英語への思いを知ること、英語の授業をよりよいものにするために行うものです。アンケートに書いた内容があなたの成績に影響することはありません。

下の  の中に、クラス、出席番号、氏名を書いてください。

クラス		出席番号		氏名	
-----	--	------	--	----	--

質問は、1から6まであります。あてはまるものを選んで、その番号をつけてください。

例

- (1) そう思う
- (2) どちらかといえばそう思う
- (3) どちらかといえばそう思わない
- (4) そう思わない
- (5) わからない

1 英語が好きですか。次の中から一つ選んで、その番号に をつけてください。

- ( 1 ) 好き
- ( 2 ) どちらかといえば好き
- ( 3 ) どちらかといえばきらい
- ( 4 ) きらい
- ( 5 ) わからない

2 英語を勉強することは、自分にとって大切だと思いますか。次の中から一つ選んで、その番号に をつけてください。また、その理由も書いてください。

- ( 1 ) そう思う
- ( 2 ) どちらかといえばそう思う
- ( 3 ) どちらかといえばそう思わない
- ( 4 ) そう思わない
- ( 5 ) わからない

理由

[ ]

3 あなたは、英語が使えるようになりたいですか。次の中から一つ選んで、その番号に をつけてください。

- ( 1 ) そう思う
- ( 2 ) どちらかといえばそう思う
- ( 3 ) どちらかといえばそう思わない
- ( 4 ) そう思わない
- ( 5 ) わからない

4 アルファベットを読んだり書いたりすることについて質問します。下のア～ウまでのそれぞれについて、あなたの考えに一番近いものを 1～5 の中から一つ選んで、その番号に をつけてください。

アルファベットを読んだり書いたりすることは	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
ア 楽しい	1	2	3	4	5
イ 大切だ	1	2	3	4	5
ウ 簡単だ	1	2	3	4	5



- 5 中学校の英語の授業の中でやってみたいと思うことはどのようなことですか。下のア～セまでのそれぞれについて、あなたの考えに一番近いものを1～5の中から一つ選んで、その番号にをつけてください。

中学校の英語の授業で次のことを	やってみたい	どちらかといえばやってみたい	どちらかといえばやりたくない	やりたくない	わからない
ア 英語を聞くこと	1	2	3	4	5
イ 英語を話すこと	1	2	3	4	5
ウ 英語を読むこと	1	2	3	4	5
エ 英語を書くこと	1	2	3	4	5
オ 英語の歌を歌うこと	1	2	3	4	5
カ 英語を使ってゲームをすること	1	2	3	4	5
キ 英語の発音を練習すること	1	2	3	4	5
ク 英語で外国人と交流すること	1	2	3	4	5
ケ 英語で友だちと会話をすること	1	2	3	4	5
コ 英語で自分のことを言うこと	1	2	3	4	5
サ 英語の表現を学ぶこと	1	2	3	4	5
シ 日本語と英語の違いを知ること	1	2	3	4	5
ス 日本のことを英語で説明すること	1	2	3	4	5
セ 外国のことについて学ぶこと	1	2	3	4	5

- 6 小学校で英語を勉強したことで、「ことばっておもしろいな」「ことばは大切だ」「日本語と英語は違うんだな」と思ったことがあったら、書いてください。

[ ]

ありがとうございました。

## 引用・参考文献

- 神奈川県教育委員会 2009a 「平成 21 年度『各教科等の指導の重点』中学校」  
[http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/ed\\_sien/juten/index.html](http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/ed_sien/juten/index.html) (URL は 2010 年 2 月に取得)
- 神奈川県教育委員会 2009b 「平成 20 年度神奈川県公立小学校及び中学校学習状況調査 結果のまとめ 中学校」
- 神奈川県立総合教育センター 2008 「小学校英語活動 15 - 子どもたちの積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するために - 」
- 神奈川県立総合教育センター 2009 「はじめよう 楽しい英語活動～小学校英語活動 進め方のヒント～」
- 共同研究委員会英語小委員会 2006 「財団法人 言語教育振興財団 助成研究(平成 17 年度) 英語学習意欲を促進する要因(2) 意識調査の因子分析と項目分析」
- 国立教育政策研究所 2009 「平成 20 年度『小学校における英語教育の在り方に関する調査研究』成果報告書」[http://www.nier.go.jp/shoei\\_h20/shoei.html](http://www.nier.go.jp/shoei_h20/shoei.html) (URL は 2010 年 2 月に取得)
- 座間市教育研究所 2009 「研究所報 第 78 号」
- 静岡県総合教育センター 2009 「学校英語教育における異校種間連携の推進及び充実のための研究 連携への具体化実践事例を糸口に」(静岡県総合教育センター『平成 20 年度研究紀要第 13 号』) pp.27-56
- 大学英語教育学会学習ストラテジー研究会 2006 『英語教師のための「学習ストラテジー」ハンドブック』 大修館書店
- 文部科学省 2008a 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』 東洋館出版
- 文部科学省 2008b 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 開隆堂出版
- 大下邦幸 2009 『コミュニカティブクラスのすすめ - コミュニケーション能力養成の新たな展望 - 』 東京書籍
- 金谷憲、青野保、太田洋、馬場哲生、柳瀬陽介 2009 『英語授業ハンドブック 中学校編』 大修館書店
- 香西麻理 2009 「伝え合う楽しさを学ぶ小学校英語 - 学級担任を中心とした授業づくり - 」(神奈川県立総合教育センター『長期研究員研究報告第 7 集(平成 20 年度)』) pp.67-72
- 後藤典彦、富田祐一 2001 『はじめてみよう! 小学校・英語活動』 アプリコット
- 小林君江 2007 「学ぶ意欲を高める小学校英語 友達と楽しく学ぶ学習活動」(神奈川県立総合教育センター『長期研究員研究報告第 5 集(平成 18 年度)』) pp.57-60
- 酒井英樹 2009 「小学校外国語活動の導入で入門期がこう変わる」(『TEACHING ENGLISH NOW VOL.14 SPRING』)[http://tb.sanseido.co.jp/english/newcrown/t-e-n\\_bc/index.html#014](http://tb.sanseido.co.jp/english/newcrown/t-e-n_bc/index.html#014)(URL は 2010 年 2 月に取得)
- 鈴木秀和 2003 「自分の思いや願いを伝え合う小学校英語活動 - 児童が安心して楽しく活動できる支援のあり方 - 」(神奈川県立総合教育センター『長期研究員研究報告第 1 集(平成 14 年度)』) pp.73-76
- 高木晋 2009 「中学校英語科における書く力を高める指導の在り方を探る 「書くこと」の指導段階のモデルの提案」(青森県総合学校教育センター『研究紀要』)  
[http://www.edu-c.pref.aomori.jp/kenkyu/2008/d\\_kiyou.html#ky](http://www.edu-c.pref.aomori.jp/kenkyu/2008/d_kiyou.html#ky) (URL は 2010 年 2 月に取得)
- 田中正道 2005 『これからの英語学力評価のあり方 英語教師支援のために - 』 教育出版

- 寺島隆吉、小川勇夫 2005 「英語入門期における単語発音の指導(上)」(岐阜大学『岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究 第7巻』) pp.157-180  
<http://www.ed.gifu-u.ac.jp/~kyoiku/info/jissen/pdf/0714.pdf> (URLは2010年2月に取得)
- 根岸雅史、東京都中学校英語教育研究会 2007 『コミュニカティブ・テストングへの挑戦』 三省堂
- 樋口忠彦、緑川日出子、高橋一幸 2007 『すぐれた英語授業実践 よりよい授業づくりのために』 大修館書店
- 平井早苗 2008 「『書く力』を伸ばす英語の指導法 効果的な視聴覚教材の活用を通して」(神奈川県立総合教育センター『長期研修員研究報告第6集(平成19年度)』) pp.79-84
- 本田勝久、小川一美、前田智美 2007 「ローマ字指導と小学校英語活動における有機的な連携」(大阪教育大学『大阪教育大学紀要 第1部門 第56巻 第1号』) pp.1-15
- 松香洋子、伊藤京子、井上啓子 1988 「児童英語教育と中学英語教育の接点をさぐる」(『日本児童英語教育学会研究紀要』1988年7号) pp.29-36
- 松川禮子、大下邦幸 2007 『小学校英語と中学校英語を結ぶ - 英語教育における小中連携 - 』高陵社書店
- 松沢伸二 2009 「『活用する力』を英語科でどう育てどう評価するか」(『指導と評価 2009年4月号』) 図書文化協会 p.35
- 村野井仁、千葉元信、畑中孝實 2001 『実践的英語科教育法 総合的コミュニケーション能力を育てる指導』 成美堂
- 村野井仁 2006 『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店
- 望月昭彦、久保田章、磐崎弘貞、卯城祐司 2007 『新しい英語教育のために 理論と実践の接点を求めて』 成美堂
- 八島智子 2004 『外国語コミュニケーションの情意と動機 - 研究と教育の視点 - 』 関西大学出版部
- 湯川笑子、高梨庸雄、小山哲春 2009 『小学校英語で身につくコミュニケーション能力』 三省堂
- 吉田研作 2008 『小学校英語指導プラン完全ガイド』 アルク
- Benesse 教育研究開発センター 2009 「第1回中学校英語に関する基本調査報告書【教員調査・生徒調査】」
- Ehara, Yoshiaki 2004 *Self-Expression and the Structural Syllabus---Bridging the gap: An Analysis of a Learner Corpus and Journal---* (神奈川県立総合教育センター『研究集録第23集』) pp.37-44
- Larsen-Freeman, Diane 2003 *Teaching Language : From Grammar to Gramming*, Thomson Heinle
- Oxford, Rebecca L. 1990 *Language Learning Strategies: What Every Teacher Should Know*, Heinle & Heinle Publishers
- Rivers, Wilga M. 1981 *Teaching Foreign-Language Skills*, The University of Chicago Press
- Scharle, Agota and Szabó, Anita 2000 *Learner Autonomy: A guide to developing learner responsibility*, Cambridge University Press

『小学校英語活動を踏まえた中学校英語の入門期指導』の作成関係者

< 助言者 >

所 属	職 名	氏 名
神奈川大学	准教授	久保野雅史

< 調査研究協力員 >

所 属	職 名	氏 名
鎌倉市立深沢中学校	教 諭	平井 早苗
寒川町立旭が丘中学校	教 諭	林 ミカ
座間市立西中学校	教 諭	鈴木 京子
大井町立湘光中学校	教 諭	岩井 隆豪

< 神奈川県立総合教育センター >

所 属	職 名	氏 名
カリキュラム支援課	指導主事	奥山 澄夫
カリキュラム支援課	指導主事	荒川 憲行
カリキュラム支援課	教育指導専門員	柴田 哲

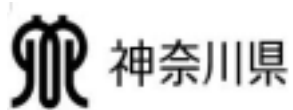
小学校英語活動を踏まえた中学校英語の入門期指導

発 行 平成 22 年 3 月  
発行者 安藤 正幸  
発行所 神奈川県立総合教育センター  
〒251-0871 藤沢市善行 7 - 1 - 1  
電話 (0466)81-1659 (カリキュラム支援課 直通)  
ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

本冊子については、ホームページで閲覧できます。



再生紙を使用しています



**神奈川県立総合教育センター**

カリキュラムセンター（善行庁舎）  
〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

TEL (0466)81-0188

FAX (0466)84-2040

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

教育相談センター（亀井野庁舎）  
〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4

TEL (0466)81-8521

FAX (0466)83-4500

